

幼 兒 教 育

第 三 十 四 卷 十 二 月 號 第 二 十 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

生徒募集

本科生 四十名
研究生 若干名

願書受付 昭和九年十二月一日ヨリ
昭和十年三月二十日迄
規則書は貳錢切手封入の上申込まれよ。

玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來二十年。
大正五年東京市麴町區に創立。
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

武藏野音樂學校長 福井直秋先生著

最新刊

婦人唱歌

全一冊
極上布製函入
定價 金八拾錢
送料 金六錢

現代婦人に最適な歌集

次 目

家庭生活の中心であり、子女教育の最も良き指導者たる日本婦人の愛唱に供へ、高雅にして優美なる情操の培養に資せんとするもの、敢て現代婦人の御試唱御高評に俟つ。

- 一、ああ故郷 二、愛する友 三、秋の夕 四、朝の海 五、朝まだき 六、海の日本 七、梅の色香 八、浦風吹けば 九、樂の音より 一〇、くれゆく野ら 一一、荒城の月 一二、月下の舟遊 一三、木蔭なつかし
- 一四、故郷の山河 一五、故郷の我が家 一六、こげやこげや 一七、子守歌 一八、榮行く御代 一九、櫻二〇、さけ花よ 二二、すべては空し 二二、隅田川 一三、すみれ 二四、夕陽 二五、正しき道 二六、谷間の花 二七、樂しき農夫 二八、旅路 二九、月の祈り 三〇、つどひ 三一、友を懐ふ 三二、なつかしの故郷 三三、夏の夜 三四、虹 三五、日章旗 三六、眠れよ 三七、ねむれよ 三八、植生の宿 三九、春たけ
- なは 四〇、春の光 四一、一つ家 四二、朝陽の光 四三、盆踊 四四、松よ 四五、蟲の音 四六、森のひびき 四七、山路 四八、夢 四九、わが大君 五〇、別れ悲しも

福井直秋先生著
兒童唱歌七十一曲集
定價一、二〇 送料一〇

福井直秋先生著
小學の教材の選擇に就て
唱歌の
定價、四五 送料四

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編
新兒童唱歌 第一學(定價金拾六錢)
年用(送料金貳錢)

日本教育音樂協會編

小學唱歌教授指針

定價、六〇 送料六

日本教育音樂協會編

エホンシヤウカ
春・夏・秋・冬の巻

定價各金、三五 送料各二

日本教育音樂協會編

子供の舞踊

定價 低學年用各金一、六〇 送料各六
高學年用各金一、〇〇 送料各六

生徒募集

本科生 四十名
研究生 若干名

願書受付 昭和九年十二月一日ヨリ
昭和十年三月二十日迄
規則書は貳錢切手封入の上申込まれよ。

玉成保姆養成所

所長

ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン
東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來二十年。
大正五年東京市麴町區に創立。
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

武藏野音樂學校長 福井直秋先生著

最新刊

婦人唱歌

全一冊
極上布製函入
定價 金八拾錢
送料 金六錢

現代婦人に最適な歌集

次 目

家庭生活の中心であり、子女教育の最も良き指導者たる日本婦人の愛唱に供へ、高雅にして優美なる情操の培養に資せんとするもの、敢て現代婦人の御試唱御高評に俟つ。

- 一、ああ故郷 二、愛する友 三、秋の夕 四、朝の海 五、朝まだき 六、海の日本 七、梅の色香 八、浦風吹けば 九、樂の音より 一〇、くれゆく野ら 一一、荒城の月 一二、月下の舟遊 一三、木蔭なつかし
- 一四、故郷の山河 一五、故郷の我が家 一六、こげやこげや 一七、子守歌 一八、榮行く御代 一九、櫻二〇、さけ花よ 二二、すべては空し 二二、隅田川 一三、すみれ 二四、夕陽 二五、正しき道 二六、谷間の花 二七、樂しき農夫 二八、旅路 二九、月の祈り 三〇、つどひ 三一、友を懐ふ 三二、なつかしの故郷 三三、夏の夜 三四、虹 三五、日章旗 三六、眠れよ 三七、ねむれよ 三八、植生の宿 三九、春たけ
- なは 四〇、春の光 四一、一つ家 四二、朝陽の光 四三、盆踊 四四、松よ 四五、蟲の音 四六、森のひびき 四七、山路 四八、夢 四九、わが大君 五〇、別れ悲しも

福井直秋先生著
兒童唱歌七十一曲集
定價一、二〇 送料一〇

福井直秋先生著
小學の教材の選擇に就て
唱歌の
定價、四五 送料四

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編
新兒童唱歌 第一學(定價金拾六錢)
年用(送料金貳錢)

日本教育音樂協會編

小學唱歌教授指針

定價、六〇 送料六

日本教育音樂協會編

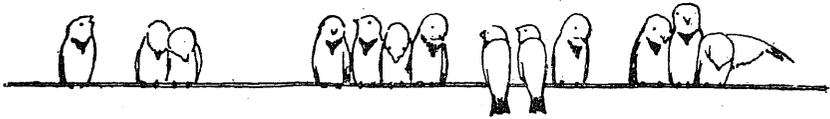
エホンシヤウカ
春・夏・秋・冬の巻

定價各金、三五 送料各二

日本教育音樂協會編

子供の舞踊

定價 低學年用各金一、六〇 送料各六
高學年用各金一、〇〇 送料各六



號二十第 育 教 の 兒 幼 卷四十三第

— (次 目) —

口繪	卷頭	露天保育と教育原理	小學校と幼稚園の連絡問題	手技に關する座談會	おもちゃ	お母様のお話あひ	兒童心理學文獻抄(二)	幼稚園に於ける優秀兒の取扱	保姆先生に此人あり	兒童映畫に就いて	童王女の猫の話
	倉橋惣三(一)	倉橋惣三(二)	久保田亀藏(三)	(四)	及川ふみ(五)	白根美智子(六)	牛島義友(七)	中村楠雄(八)	箕作長郎(九)	奥平美雄(一〇)	中野好夫(一一)

幼稚園低學年

おはなし

長尾豊著



（四六判表本函入・挿繪曲附等・價一・五〇・送料・一〇）
 * 繪本を與へて片假名を拾ひ讀みさせる程度のお話は語つてきかせるにも聽くにも面白くありません。——何か幼稚園や低學年の子供に親しまれる新しい話材をといふ要求に應じて本書は生れました。兒童劇の第一人者長尾先生の生きたお話！
 * 總振假名付で繪や曲譜も添へてあります。一つ一つのお話にはまた話し方や解説を附しました。
解説の附いた學校の好指導書
お母さん保姆さん方の新話材！

（姉妹書）
幼稚園
低學年

おゆき

長尾 豊著
價一・〇〇
送料・一〇

おはなし内容

春から夏
豚と牝牛と牝雞

雀と鳥
栗鼠のお家

コックリ國
金の卵をさがしに
エミ子のお手つだひ

小馬
狼と岩・その他

秋から冬
栗鼠と牝雞

らくだと豚
象と狼と鳥

大きな林檎
木の葉

雪うさぎ
ふしぎな花・その他

冬から春
冬から春

ひとりぼっち
お婆さんと鳥

金の羽
ほしがり兎

打出の小づち
猫が胡弓ひく

洞穴のお返事
春が来た・その他

やさしい歌謡に合せて手指を動かす指あそび、折紙を折りながらお話をきかせる折紙はなし、そのほか新しい簡素なおゆき十九種を救め、繪入り曲譜つきで一々遊ばせ方が丁寧に説明されてゐる。幼兒の自發的な自由な活動を視つたのと、何處に於ても容易に實施されるやう工夫が施されてゐる。

北崎	永榮氏著	先生としてのお父さんお母さん	價一・〇〇	送一・四
池田	小菊氏著	父母としての教室生活	價二・三〇	送一・八
大谷	恒郎氏著	先生から知らたいた生きた教育實話	價一・八〇	送一・四
永澤	義憲氏著	幼稚園教育の實際	價一・八〇	送一・四
長尾	豊氏著	幼稚園教育ばなし	價一・八〇	送一・四
長尾	豊氏著	童話と其味ひ方解説	價二・一〇	送一・四
三森	連象氏著	幼稚園や低學年の生活圖畫指導	價二・六〇	送一・四
草川	長尾兩氏著	唱歌あそびと小さい唱歌劇	價一・〇〇	送一・〇
長尾	豊氏著	お話あそびと小さい劇	價一・六〇	送一・四
厚生	網編輯部	動作のつたやさい唱歌〔正續〕	價一・〇〇	送〇・八
小瀬	峰洋氏著	幼稚園の舞踊	價〇・八〇	送〇・八
石井	小浪氏著	尋一の舞	價〇・八〇	送〇・八
石井	小浪氏著	尋二の舞	價〇・八〇	送〇・八

東京 麹町 六下町 厚生閣刊行 電話 九段 番八一二三
 東京 豊後 五九六〇番



庭 の 冬

園 稚 幼 屬 附

幼 児 の 教 育

昭 和 九 年 十 二 月

霜 柱

幼稚園の庭に初めての霜が来た朝である。ほか／＼と暖い日光を浴びながら保育室の入口に立つてゐると、二人の子どもが馳けて来て、いゝものを見せてあげようと言つて手を差し出した。可愛い、兩手を重ねて大切そうに何か持つてゐるのである。何んでせうと私が聞くと、容易には見せられないといった顔付きを見かほして、二人いつしよに手を開いた。一人の手には溶けかけの霜柱が、それでもまだ氷の形をして白く残つてゐる。次の子の手には、泥にぬれた赤い掌の中で、霜柱がもうすっかり溶けて仕舞つてゐる。

心なの霜柱よ。なぜ、どの子にも握られてゐて呉れないのか。

先 生

藤の柄を一握りもつて、女の子が二人私の室へ来た。これで編んで呉れといふのである。私は閉口したが卒直に出来ないと言へた。そして、先生にしてお貰ひなさい。先生はお上手ですよと言ひ添へた。「倉橋先生も先生じゃないの？」生真面目な顔である。そして、「ねえ……」と長く引いて二人が顔を見あはせてゐるではないか。

先生に二種あり。満足を與へ得る先生と與へ得ない先生と。此の場合、まさかそんなこともいへない。先生のところへ馳けてゆくその子ども達を、入口のところまで丁寧に送り出したのが、その時のせめてもの私であつた。

(倉橋 惣 三)

露天保育と教育原理

倉 橋 惣 三

大阪の橋詰良一氏が創設し、擴充せられた「家なき幼稚園」は幼児の教育上、考への上でも社會的の上でも大なる意義を持つたものでありました。その發展を皆祈つてゐたのですが、惜しむべし、今夏同君の長逝にあひました。私は嘗て同君のために左の如き講演をなしたことがあり、その筆記が保存せられてゐました。茲に同君の靈に捧ぐる敬意を以て年末の本誌に掲げるとしました。

一

幼稚園とか、學校といふやうな場所におきまして小さい子供の教育をしますものゝ何より困難なところは何であるか、いろいろ實際上の難かしいところがあるのでありますが、その中でも最も困難なところは教育の出發點におきまして子供に或故らな、慇懃らしい心持を與へるこゝが我々の最も心配して居る點であります。

勿論或方は教育といふものは子供にさういふ心持から出發させて行かなければ出來ないものだといふやうな、私共は全く反對な考へをおもちの方ではない。これから擊劍の稽古を教へる、兎に角鉢卷をして來い、襷をかけて來い、さうして道場に入れて擊劍を習ふといふやうな、故らな心持を持たなければ、特殊なる一種の緊張の状態に入らなければ、教育といふこゝが始まつて行かないといふこゝを考へる方があります。勿論非常に特殊な場合におきましてはさういふ故らな心持から出發して行かなければ容易に教育の効果が纏まらないといふこゝもあるであります。例へば宗教

教育といふやうな性質のものになります。いふこその建物、その教室、いろ／＼なものを日常ふだんの世界は少し違つた心持の起るやうに拵へて置きました。その教室にはいるこゝによつて既に一種の宗教々育を受けるに都合のいゝやうな豫備状態を、子供の心の中に拵へて置く。そして其處でいろ／＼の宗教上の教育が始まります時に、子供も與へるものゝ心を受取易い状態において受取つて呉れる。いふこゝが多分あり得るこゝであります。或はまた宗教々育といふやうなものにおいても必ずしもさういふ特殊な出發點を必要としない。いふ方の考へ方もあり得るかも知れませんが、假に宗教教育といふやうな所謂日常ふだんの生活は少し違つた種類の教育をして行く場合においては、いろ／＼な方法によつて出發點から特殊な心的態度を子供に持たせて置く。いふこゝが、少なくとも便利なこゝであるかも知れない。こゝろが普通の教育即ち生活に出發して、生活を通して生活に終る。こゝろの教育といふ意味において、この所謂普通な教育を與へる場合におきましてはその特殊なる心的態度を子供に豫め持たせる。いふこゝが非常に有害なこゝであつて、そのために本當の教育をなし得ない結果を生ずるこゝが大いにあるのであります。

我々の長い間教へられ又今日現にやつて居ります總ての教育機關の働きといふものが、學校にしましても幼稚園にしましても、特殊なる心的態度を子供に豫め要求するこゝからのみ出發して居りますから、時にはその點を心付かずに過ぎるこゝがある。さうも斯ういふこゝろでは子供が教育を受けるやうな心持になつてくれないから教育を與へるこゝが出来ない。斯ういふ柱、斯ういふ壁、斯ういふ天井ではいけない。教場は教場らしく、學校は學校らしく、幼稚園は幼稚園らしく一定の豫備感情が漲ぎるやうな設備をしてからでなければ脇道に反れ易い。羽の生へたやうな心持をもつてをる子供の心を思ふやうに纏めて行くこゝは逆も出来ない。いふやうなこゝが多く考へられてゐるのであります。併ながらこれを他の方面から考へて見ますと、態たいをらしき特殊なる或心持から出發する。こゝろの總ての生活は、態たいをらしい。いふ、その故

らなる心さいふものが日常の子供の、所謂純真なる状態に對して、或は「セルロイド」の如く、或は「オブラート」の如く、或は牛乳の上に出來る薄皮の如き極く薄いものではあるかも知れませんが、その純真の上を掩ふところの何物かゞ、其處にあるさいふことは考へられる。その極く稀薄なる掩ひものでありまして、それが子供の純真なる生活を上包みしてゐる時には、所謂教育と其の子供との間に微かながら一種の隔てが出来るのであります。或はその隔てが可なり濃厚なるものとなつて教育と子供との間に大きな垣根を造つて居ることもあり得るのであります。その垣根を造つた上において、子供の純真なる生活を發揮させ純真なる生活に訴えてのみ生るゝところの純真なる教育が出来るさいふことは到底不完全なことであります。

總て人間のこゝは眞實の上に出發しなければならぬさいふことは我々の常に學ぶところでありませんが、人間の最も眞實なる仕事であり最も眞實であるところの教育が誤りをもつて居つても汚れをもつて居つても構はないさいふことは有り得べからざることで、斯かるものを以て子供に對して眞實の教育をすることは到底考へられないことであります。近來はその點からいろいろ考へられて居りまた教育上における自由さいふことが頻りに尊重されるけれども、その自由さいふことは教育におきましてのみならず總ての人間の生活において非常に大事なものであつて、不自由と無理とによつて何んの眞實なものも得られないさいふことは云ふまでもありませんが、その自由さいふものを眞實に得るがためには何によつて出来るか。昨日は志垣君の極めて意味深いお話があつたさうであります。私はその題を拜見して日頃御懇意にして居る志垣君の云はれた意味の大體を推測することが出来るのであります。人間性さいふものに信頼することによつてのみ、人間の自由が可能であるさいふことの意味であつたらうと思ふのです。これは自由さいふことを可能ならしめてゆくところの内容的第一原理としてさういふことが云へるのであります。人間を信ずることによつてのみ自由を與へるさいふこと

は、これは自由を可能ならしむる内容的原理として非常に大切な眞理であります。そこで私はその意味深い内容的眞理以外の方面からこの問題を觀察して、即ち内容的方面でなくして生活の形式的方面からこれを考へて見まして、眞實なる自由の生活はその出發點において眞實が與へられてるのでなければ出來るものでないといふことを云はうと思ひます。

二

今日の教育において自由といふことを頻りに尊重するところの議論は既に實際問題になりました、如何にして子供の生活を自由ならしめやうかといふことに非常に多くの人が骨を折つてゐるのでありますが、多くの場合において子供の生活の出發點のことはあまり考へずしてその成育の途中を如何にして自由ならしめようが、即ち或不自由な状態に子供を導きまして、しかもその中で如何にして自由を得させようかといふことに、今日の努力が限られ、或はこゝまつてゐるやうな感じをもつのであります。何故なぜもう少しその出發點に遡つて其處から自由といふものが生れて來なければならぬやうな出發點を子供に與へるこゝが工夫されないかといふことは我々の考へてもいゝことではないかと思ふのであります。この意味におきまして、私は所謂露天幼稚園、或は家なき幼稚園といふものに非常に好都合なる積極的意義、價值、長所といふものを發見するのであります。

今日小學校なり幼稚園なりの建築におきまして少し進歩した人の考へます苦心は、如何にしてその部屋にあるこゝによつて、この門をくゞるこゝによつて、あの自分の家に居る、往來に居る、野原に居ると同じやうな日常ふだんの生活の心持で、その學校にあり得させるやうな心持を子供に持たせるやうな建築が出來ないかといふことにあります。しかつめらしい教壇を徹廢しなければいけない、特別に或中心ちゆうしんなるこゝの「ボールド」の設備を徹廢しなければいけない、特別に教師だけを中心ちゆうしんするこゝの机の置き方を改良しなければいけない、一人々々の生活をなし得るこゝの當前あたりまへの場所ばしょとして

の教場を工夫しなければいけないといふことは皆考へるのであります。即ち小學校の教室は次第々々に仕事場に變つて來る。幼稚園の保育室は次第々々に家庭の子供部屋と同じことになつて來る。今日少し進歩したところの幼稚園、學校の建築を見まして、これが教室ですか、これが保育室ですかといふ疑ひを、或種類の人は持つ傾向が現はれて來てゐるのであります。この傾向を最も徹底的に實行したものは寧ろその床を去り、家根を去り、柱を去つて、露天、戸外、野原、往來、神社の境内、田の畝、川の水、等であり、あのありの儘の自然の中に子供を放つことによつて、この態さらしい、故らなる心持から子供の教育を出發させることを如何にして避けるかといふこと、の苦心してゐる問題が、其處に解決されるのであります。

「モンテッソーリ」といふ伊太利の幼児教育者が、やはりこの點から從來の幼稚園といふものに非難を加へ、机をきちんき竝べて置くこと、及び教室を小さく仕切ることを反對して、机なき幼稚園といふやうな言葉において現はされるかも知れない一つの主義を立てました。世界の人は非常に其處に共鳴しまして、これが大いに謳はれたのであります。その机なき幼稚園から更に人間の造つた建物といふものゝない幼稚園に徹底的に進んで行く道が、即ち露天幼稚園或は家のない幼稚園でありませう。斯う考へることによつて家のない幼稚園といふものは、家がないといふ消極的の意味から一大轉化しまして、全く幼児教育原理の積極的思想に基くものに、我々の考へが向つて來るのであります。家を建てる資金がかかる、廣い特別の地所を所有せねばならぬ、そこで家がなくても幼稚園が出来るといふ觀念は、この家なき幼稚園、或は露天保育といふことから見ても、我々が先づ取り去らなければならぬ考へで、家がなくても幼稚園が出来るといふのはなくて、家があつて邪魔になる、といふのが、この露天幼稚園の積極的の考へ方であると思ふのであります。

この中には御家庭の方が多いうでありますから、よく斯ういふことをお思ひになるかも知れません。家庭で子供を教

育するといふことが必要だき聞いてゐるが、家庭には座敷だけしかない、茶の間だけしかない、椽側しかない、火鉢の周圍しかない、庭しかない、學校に行つて見るやうなあの教育の場所がない、故に家庭では教育が出来ない、學校へ行くミ子供は家庭にゐる時とは違つた状態になつて教育を受けてゐる、家庭で云ふことを肯かない子供が、學校へ行くミ驚くべき緊張を示してゐる、家庭では十分間もぢつとしてゐない子供が學校へ行くミ机の前に四十十分間もきちんとしてゐる、實に教育は偉いもの、學校は偉いものミ考へる方があるかも知れませんが、私共はそれは逆の考へ方です。あの家庭では椽側で足を投げ出し、或は茶の間で癡そべつて、しかも充實して本を讀み、充實して繪畫を描いてゐる子供が我々の教室に來ては故らな緊張を示してゐるのに寧ろ多くの憂慮を感ずるのであります。鉢巻をして武藝を習つたものは、或は鉢巻を取るミ武藝が出来なくなるミことがないミも限らない。制服を着れば勇氣の出る人間が、制服を脱ぐミ臆病にならんミも限らない。今日の所謂故らな教育から出發する態度においては或はこれに類するミことがありはしないか思ひます。學校では癖がついてゐる、教場がないミ本教育が出来ないといふがあゝいふ故らな場所、故らな教育は何を意味するだらうか、それは實に眞實の教育ではない。この意味において私は子供の純眞なる生活を形式的に妨げてゐる一切のものをかなぐり棄て、の教育主義を非常に重要なものと思ふのであります。「家なき幼稚園」といふものは、大阪におきましては橋詰さんの創造に基き、橋詰さんの御工夫によつて實現して居るので、今日も寶塚ミ、池田の二箇所を拜見しまして、私はこんなによく實現し得られるものかといふことを實際に拜見して來ました。併ながら大阪において實現して居るのはこの二つ、或はそのあたりにありますところのものであります。總て昔から眞實に子供の生活に觸れて行かうミする教育者は皆さういふことは考へて居り、或はその心持をもつて始終悶へ悩んで居つたといふことが出来るかも知れません。

私はフレーベルの古蹟を行脚して到る處において、此處でフレーベルが斯ういふことを考へ、斯ういふことをしたかき、

非常に興味を覺えましたが、その中でも特に駭々たる興味を感じさせられましたのはリーベンスタインの温泉であります。これはフレーベルが、既に晩年に至りましてフレーベル幼稚園原理の最も成熟した極度の時で、フレーベルは其處で死んだのでありまして、即ちフレーベルの理想主義が芽を吹いてゐる時ではなくて成熟した時期であります。フレーベルは其處に保姆養成所を建てまして自分の考へを若いものに傳へるこいふことにおいて最も努力し、傍ら幼稚園を造つて子供と共に暮して居つた場所であります。それは山の横の一寸した平地にある建物で、何さかいふ人がフレーベルのために與へて呉れた相當に立派な建物で、その建物から一寸出ますこいふこ、直ぐに何の木でありますか、密集した森林になりまして、その森林の中を爪先あがりに行きますこ、程遠からぬこころに打ち開けた、一つの丘のやうなこころに出ます。その丘の上に參つて見ますこ四方に森林地帯を圍んでゐる山が見えてゐて、その下に實に美しい景色が展かれてゐます。その森林の外れのこころに石を積みまして、その地點を記念してありますが、私はフレーベルが晩年に事業を大成したこころの建物を見て、それからその森林の中を馬車屋こ一緒にぶらぶら通つてその丘の上に来ました時に、實に其處にフレーベル研究の一番大きな教訓を得たやうな心持がしました。フレーベル云へばあの二つの大きな著述を現はして居ります。その教育學及び教育方法が本體こなりまして、獨創の恩物を如何にして使うべきか、或は作業を如何にして指導すべきか、それにはフレーベルの實に深い哲學こ獨特の教育的識見こがまざりまして、非常に意味深いものが出來てゐます。我々はフレーベルこいふこ直ぐにその教育方法を聯想し恩物を如何にして用ゆべきか、如何にしてフレーベル主義の作業に合するやうなこころが出來るかこいふこを非常に心配するのであります。こころがその森の端に行つて見ますこ、其處がフレーベルが幼稚園の子供達を連れだしては遊んだこころの場所であります。私想像して見ますに、フレーベルはその幼稚園の建物の中へ子供を集めて、或は第一恩物、第二恩物を與へ、若くは玉繫きをさして居つたであります。

窓の外には其の朗らかな日が當つてゐる。フレールはその自分の生命を籠めた哲學原理に基いて居る教育方法を、子供に、部屋の中で机を置いて爽へて居りながら、心の中には、これが本當だらうかといふ不安定が、何處かに起つて來たのでありませう。しかしその與へるもの、それ自身の原理は、フレールは確信をもつて信じて居るのでありまして、其處には何等の不安も有たないのでありますけれども、その教育の方法を離れて、子供の生活それ自身に、一寸でも心が行きました時に、これが子供と一緒に生活してゐる眞實の姿であらうか、これが本當の子供を活かしてゐる眞實の或時間であらうかといふことは、あのフレールの心持の何處かに響いて來たのではなからうかと思ひます。

「サア出かけよう。恩物も片付け、作業もしまつて、出掛けよう。」

さいつてフレールは先に立つ。放たれた子供達は、扉を開けてばつぱつ出掛けて、あの直ぐな道を、林の中を通つて、さうして朗らかな日の下に、柔かい草の上に、きやつきやま遊んだといふことは、想像するだけに、實に低徊去る能はざる思ひをした。フレールは必ずしもそれを書いてはるません。恐らく書くことも出来ないほど、意識に上らないほど、眞實な瞬間であつたのではなからうかと思ひます。教育のために子供を連れ出して行くといふならば、或理論がありませう。理論が成立ちませう。しかしさうでなくてフレールはその教育の理論から出發したところの仕事をしてゐるうちに、兒童の純眞なる生活が犇々迫つて來て、ぢつとしてはゐられない心持のみ、外へ、丘へといふ風に飛び出したのではないかと思ひます。フレールはそれについては何にも書いてはるません。併ながらフレールに親炙してゐた人々は、その瞬間を實に尊敬をもつて見たのだと思はれます。しかし村の人々はその光景を見て始終笑つてゐた。リーベンスタインに居たフレールの晩年は村の人々から馬鹿老爺はかおやぢと通稱されてゐて、現にフレールの高弟となつたマレンホルツ・ビュロー男爵夫人が、このリーベンスタインに來て宿屋の主人にこの村に何か面白いことはないかき聞かれた時に、その宿

屋の番頭が別に變つたこゝにはないが近來妙な馬鹿老爺が來て、年中斐もなく、子供と一緒にきやつきやき遊んでゐます。御散策がてら御覽になつては如何に云つた位村の人々は無理解でありました。しかし流石にマレンホルツ・ビュローは、後にフレーベルの第一の弟子になる人ですから、其處に或意味を感じて、丘の上へ出て教壇に立つて威嚴ある教師として子供を教育せずして、草原の上で、實に馬鹿々々しく、きやつきやき騒いで、子供を遊んでゐる。そのフレーベルを訪ね、マレンホルツ・ビュローは其處でいろいろの話を交換したこゝに於てあるが、實に馬鹿老爺に云はれるほどの眞純さに歸つてゐたのであります。これは實に家なき幼稚園、フレーベルの露天保育だと思ひます。フレーベルが彼の幼稚園の部屋の中で何分の時間を使ひ、何分の時間をその森で使つて居つたか記録がないので私は知りませんが、フレーベルの本當の心持に或理解をもつて見ますこゝにフレーベルは恐らくその智的の理解の方から來るこゝの教育を以ての恩物作業を考案しましたけれども、あの獨特な兒童を見る天才、兒童の生活に眞實に觸れるこゝの教育天才としてのフレーベルはその野原で遊ぶ方に、より多くの教育意義を發見して居つたのであらうこゝを思ふのであります。

今日見ました池田或は寶塚の幼稚園の子供が、實際にさういふ状態に居るのか、先生方がさういふこゝをして居られるのか恰度休日やすみで拜見することが出來なかつたのを非常に残念に思ひますが大體の光景を想像することが出來ます。それは勿論人間のするこゝに於てありますからいろいろな誤謬があり、無駄もあります。しかし凡ゆる誤謬も、凡ゆる無駄を退けて、あの光景の一番奥底にあるものは何かさういふ子供の眞純なる明らさなる生活です。それがあそこに溢れて居、それに引き付けられて、先生も教育者であるこゝを忘れるほどの眞純なる我に歸り、自然の眞純なる、明らさなる松の木も、もみから飾るこゝのないあの河原の小石も一緒に自然に合體するこゝの或生活が行はれて居る。それだけは信じて疑はないこゝであります。その光景を美しく楽しく眼に描くばかりでなく、實にそれが非常に意味深きこゝだと思

は染々感ぜざるを得ないのであります。

三

このことはもう別にそれ以上細かく論議して行く必要もないほご判り切つたことだと思ひます。我々が眞純なる兒童の生活の實際に對して、非常な尊敬を持つならば、その最も樂々實現される方法を以て、あの露天保育といふものゝ意義を感じるさいふ、それだけで別に議論もないことであります。たゞそれと同じことではありますが、私がもう一つ別の方面から考案して見たいと思ふのは、今日の普通の教育においては總てが先生の方の立案を以て終始して居る點であります。教育は立案的の仕事なりといふ意味は廣い意味にも狭い意味にも考へらるゝのですが、今日の教育においては、それが非常に狭い、隨つて窮屈な意味に考へられました、もゞ立案の計畫、平らな言葉で申しますならば教師の思ふ坪に、子供を入れて來る時においてのみ可能になり得るやうな教育といふことをやつて居るのであります。ところが實際の教育は兒童の生活そのものに出發し生活そのものに終るものであるとしますならば、如何に先生が、或は教育の學理に基き、或は學問的兒童研究の研讀に基き、兒童の生活に適ふ世界をもつて、其處に計畫を立てゆきましても、その子供の生活といふものが、その子供に適應するかさうかといふことは、非常に難かしいことです。兒童に完全に適應する計畫は出來ない、或は兒童の大體の生活に、大體においていつでも適應するやうな案を立てることは出來ません。しかしこの子供の瞬間に起る生活さびたつこ合つた立案を立てることは、到底教育心理及び兒童心理學の研究によつて得られることではない。其處は悉く先生が機會を捉へるころの明敏なる、或は敏活なる働きに待つより外仕方ないのであります。今日の學校を御覽になりますと、あのきちんこ計畫されました時間及び順序まで極つて居つて、先生は悉くその立案を以て出發してゐる。さうしてその立案の中にさうして子供を入れて行かうか、さうして脱線しないやうにしようかといふ

ここに努力が費されてゐるのであります。そのために子供自身は先刻も申しましたやうに、自分自身の有の儘の心の態度に居れぬのみならず、先生自身も折角生きて動くよい心をもつて居りながら、自分の作つた立案に、或は豫て拵へてある主觀的順序に捉はれてしまつて生きて働くことが出来なくなり、極端に申すならば教育の原理と児童心理との知識によつて教師も束縛され、狭められて、自由に伸びるまじの才智才能を發揮することが出来ないで居るのが、今日の状態であります。斯ういふ風にしてやつて行く教育が、児童の上に非常な損害を與へ非常な不利益な結果を來すばかりでなく、先生自身にも非常なる損害を來すのであります。このことを或言葉をもつて申しますならば、與へられたまゝに流れてをるまじの生活に對して教師だけが總ての機會を捉へ得る力によつて教育をして行くまじふことが困難になつてしまつて居るのであります。生きて居る生活を特別な、故らな中へ盛つて終ふことによつて子供を殺します。同時にまたかういふ風な順序で、かういふ風に行はれなければいけないまじい窮屈な言葉の中に置くことによつて、教師が殺されてしまします。この雙方から殺された教場が生命のない、感じのない、鈍い、よぎんだものになるまじいふことは當然のことです。その先生は他では相當氣の利いた人でも教場にはいるまじ、教育に膠つけられることは屢々見ることです。これをさうしたらその先生の存分な才氣を自由に伴はし、實行させ、機會々々において適當な教育を與へて行くことが出来るようにさせ得るであらうか。

これは今日の學校においても可なり苦心し或は幼稚園においても同様に苦心して居る問題であつて、それがあの田の畝、河の側或は草の上で行はれるまじの露天保育、家なき幼稚園まじいものにおいて非常な有利なる條件を備へて居るのであります。

教育は勿論出鱈目ではありません。勿論教育に當つては教育者まじしての或心準備まじいものを持たずに居れない。併な

から教育はこつちから與へるものではなくて、先方ミこちらミの間に存在してゐるものでありますが、こちらだけの計畫をもつて終始しようとする時に本當の教育が其處に出来ないといふことはいふまでもないことであります。このことは家庭においても屢次同じやうな誤りが繰返されて居るかと思ひます。教育といふものは、特別な計畫を立て、その計畫通りを、或時間の間實行して行くのでなければ出来ないといふ考へに基いてゐる母親達は折角子供に本當の教育の出来る機會を與へられて居りながら、これは教育の時ではない、教育の場所ではないといふ下らない束縛のために、これを失して終つてゐます。

學校教育ならば、その學校教育が根本的の主義に無理な方法に出發してゐるから已むを得ないとして、家庭で朝子供と一緒に眼が覺めて床の中で、或は子供が先に眼を覺して何か話しかけることがありませう。その時にまあ教育は起きてからさか、或は一緒に顔を洗つて居るうちに子供がいろいろゝな生活をしませうが、これも午前八時さか九時といふ教育の時間にならなければ始まらないからいけないといふやうな考へ方は今日の家庭の教育効果を下げて居る一つの點と思ひます。或は子供と一緒にマーケットに行つて野菜を買ふ時、こんなによい博物教授の出来ることはありません。或は子供と一緒に帽子を選んでやる時にこんなによい色彩教育の出来ることは無い。或は爐邊を圍んで居る冬の夜長に、この位情報教育の出来ることは無い、しかも斯ういふ時間は實に無駄に過されてゐる。これは教育を餘りに膠つけて終ふところから、お互ひが受けてゐる實に惜しい損害と思ひます。ところが家なき幼稚園はこちらの方から子供がふらつみやつて來る、こつちの道から先生がいらつしやる。その打つかつた時に教育が始まるといふ、そこに故らならぬ先生の或働きが子供に行く。また子供の生活の意味のある、内容のある斷片といふものが其處に展開して來るのであります。家なき幼稚園は子供を連れて先生が歩いてい

らつしやる時に「先生、この草は何いふ草ですか」「これは三年生になつてから教へる筈の教材になつてゐるから、今はお答へしない」、或は往來を歩いてゐる時に橋がある、橋を渡らないでこつちの溝の方を飛んで見たい、河が子供の前に横はるこゝは子供の足にスタートを與へるよりも、心にスタートを與へる場所であります。それを本當に飛ばうこゝしてゐる時に先生は「今他の話をしてゐる時だから飛んではいけない」「こゝいつたならばこれは實に無意味なこゝであるばかりでなく、そんな考へはぎんな窮屈な先生も、戸外においては起り得ないのであつて、この凡ゆる機會、凡ゆる瞬間、凡ゆるものが子供に或興味を引き出して先生もまた、それに同じ興味を感じ得て、雙方がばたつこ合つたこゝろに總ての機會が教育になつて來るこゝに最も可能なる條件をもつてゐるものとして、露天保育が非常の意義をもつてゐる。子供が自發的にまた自動的に生活せねばいけないこゝは古いこゝですが、近來でも頻りに云はれます自發こゝは何によつて起りますか。それは子供が興味が起るやうになつて自然に興味が起るのであつて、自然にその興味を起して來る生活は何によつて起るか、これは決して言付けたり、引張り出したりして出來るものではない。

四

この頃はさうして子供に自發生活をさせようかこゝを考へて、さうか自發をお出しなさい、自動的におやりなさいといつて睨めつくらをしてゐる教育家があるのでありますが、下の方から温めでもすれば、何かむくく出て來る文福茶釜のやうなものも、或は有るかも知れません。さあ自發しなさい、それでは教育が出來ないといふても、自發は勿論、子供の中から出て來る筈ではありませんけれど、出るには出るだけの引つかゝりが無ければ逆も出て來るものではありません。子供の心は實に生活に満ちてゐて、機會あれば飛び出すやうなものには相違ないが、たゞ飛び出せといつてもさう無暗に飛び出すものではない、建築においても力のバランスをいふこゝがあつて、いろくんの力が平均して來て

はじめて偉大な力を出すやうに、子供の内的生活は非常に壓搾された空氣のやうに引締つてゐるのであります。自發的の子供を心の輕いふわ／＼してゐるものゝ考へることは大きな間違ひで、眞實の子供はさうしてあゝかき思ふほゞ、自分の中に満ちてゐる力を何處へさういふ風に出さうか、殆んささう出していゝか判らないほゞ凡ゆる力の平均が出来てゐないのであります。これを全部一度に出せよといつたら坂を轉げるより外仕方がないであります。爆裂するより外ないでせう。その充ち満ちてゐる内的充實を、或點に向つて出させるのが即ち自動生活、自發生活であります。多少の系統ある、順序ある方法によつて出て來るやうに導いて來るまことに機會が副ふて行かなければならない。或人は兒童心理學的の或一つの言葉を使つて、かういふことを申します。

「子供の中にはいろ／＼なことに關する本能的興味がある、子供さいふ袋の中には雲雀に對する興味もあり、蛙に對する興味もあり、蝶に對する興味もあつて、それが時々出て來る」といひます。しかしこの興味のもう一つ根本的なものは、子供の心には何にでも適應する興味そのものが壓搾空氣の如くはいつてゐるのであります。豫め蝶にだけ適應するだけの興味、何處かにあつたり、蛙にだけ適應する興味があるのでなく、子供の中に充ち満ちてゐる興味生活には、渾然として一つの力そのもの、興味力そのもののはいつてゐるのであります。それが野に出て蝶々が來れば蝶々に向つて、その全體の力が注がれて來るので、蝶々へ出した興味、蝶に關する興味だけで出て來るのでなくて、全體として充ち満ちてゐるまことの生活、或は生活の力がその蝶に向つて出て來るのであります。あの子供の興味は手品師が使う魔法瓶の如く、斯うやれば赤い酒が出たり、あゝやれば青い酒が出るやうに、豫めいろ／＼仕組んであつて其處へ現はれ出て來るものではなく、實に人間生活の力が一杯あつて、それが與へられた機會において與へられた問題に向つて注ぎ出て來るのであります。兒童心理學さいふやうな客觀的の見方による蝶に對する興味が出て來るま云ひますが、子供の生活の力的解釋から

見て行けば、今申上げたやうな解釋を下さねばならぬので、この意味から申せば凡ゆる子供が實に自分の力に持ちあぐむ程充ち満ちてゐるものをもつてゐるのであります。ところで自動生活、自發生活といふものは、子供自身が、その自分のもつてゐる力を無理に人から引出されたものでは自發生活にはならないのみならず、自分で出さうと思つても自發生活にならない。意地の悪い性質をもつてゐるものであります。學校の先生が子供を前に置いて大いに自發的にやらなければいけないといふも、子供が、今大いに自發的にやらうと思つてゐるころです。いふやうなこころでは、全く自發生活は閉塞して終ふ。しかも授業終りといふこころで廊下に出れば、其處に自發生活がばつこ出て來るのであります。

自發生活を發揮させるにはさういふ風に我々はせねばならぬか。それには不用意なる機會、不用意なる力が其處になければならないのであります。歌なぎにはよく春の野原に遊んでゐる子供を形容して、蝶々が招く、蝶々が招くからそれに釣られて子供が行くといつて居りますが、若しも子供に蝶々がおいでなさいといつて招いたならば子供は却つて蝶々の方には行かなくなるかも知れない。或子供はその招きに應じて行くかも知れません。しかしその行けない子供には呼んでさうするのだ、踵いて行つてさうなるんだといふ。また行く方の子供は向ふへ行くさ美しいお姫さまが澤山居て、何かいふものでも呉れるのかといふやうな、童話の世界を考へて踵いて行くかも知れません。おいでなさいと云はれると、もう行く氣が無くなるか、若くは行つてさうなるかといふ二つの心が屢次起ります。しかし蝶々は決して招いてゐるのではない、自分は勝手に飛んでゐる、その不用意なる獨特の力、あの力に子供の自發性が引摺り出される。自然に出されたこころのその不用意なる、しかも不用意なるが故にのみ持つこころの大いなる力が子供の上に及んで來るのであります。先生自身が不用意に馴らされなければ子さにも眞實に自發生活をさせるこころは出來ないといふのが、今の私の考へであります。

私は子供の時のこゝは忘れませんでした、随つて今の子供の心の中も判りませんから、子供が實際にどういふ風に思つてゐるか想像するこゝはなかく困難であります、恐らく今日の教育を受けてゐる小學校や幼稚園の子供が始終思つてゐるはないかといふこゝは、勿論先生は有難い人だといふこゝは思ひませう。親切な人だといふこゝも思ひませう。しかしこの外に先生は何故あんなにしつゝこく仕掛けて来るだらうかといふこゝを、可なり思ひはしなからうかと思ふのであります。少し下品な言葉で云へば教師は常に子供に煩^{うら}さがられてゐると思ひます。必ずしも教師ばかりではありません、所謂教育に熱心なお母さんも大體想像してよいと思ひます。子供が臺所の方へぶらつて行つて見る春の陽を浴びてお母さんが張物をしてゐる、「いゝ天氣ですな」話しかけるこゝ、お母さんは張物の手をも休めないで「さうだね」こゝ「その着物は誰の」「これは坊やの着物です」「さう」それで子供は置きたいのです。然るに子供の薩張りした心を、所謂教育に熱心なお母さんは振り返つて、其處で子供に向つて教育をはじめて来る。その時に子供は「はじめまつたナ」こゝ思ふか、又は「實にしつゝこいな」こゝ思ひませう。或は「お前は少し野原へ出て駈けなければいけない」こゝいつて、お母さんでも先生でも一緒に駈けます。そしてしつゝミゝ駈けながら子供が後ろから踵いて行くこゝ、ふり向いて「駈けてゐますか」或は「早くおいでなさい」「どかいろいろなこゝを、ちよいと云つて呉れる時に子供が「實に煩さい、しつゝこいな」こゝいふ感じを持ちはしないかと思ひます。私は教場で小さな子供に會つてゐる時に、いつもそれを感じます。一番困るのはそのしつゝこゝが子供の自發性を妨げるこゝを非常に考へる。子供はもう終ひには顔を見ただけでうんざりする。家へ歸るのはいゝがあのしつゝこゝい顔を見るのがいやだといふこゝになる親も堪りません。學校に行けば先生がしつゝこゝい顔を見せる。子供はもう少し何處かさつぱりしたこゝろは無いか考へる。その時に野原へ出るこゝ、犬が獨りで駈けてゐる。お伽話には「さあ、行きませう」こゝ書いてあるが、あれは嘘つ八で、若しまた犬がそれを云つたならば子供はまたしつゝこゝいと思ふ。しかし實際の犬は

不用意なる力で駆けてゐる。その時に始めて本當の純真なる子供の自發生活は出て來るのであります。

ところがこの人生の不用意の價値、殊に教育における不用意なる價値を徹底して或は學校なり幼稚園の先生が、これから不用意でなければいけぬ、しつゝこいと思はれるのはいかんかといつて、教室にはいつても子供のゐるのも知らないで、ずつみ向ふへ突き抜けて終つても困る。子供は「この頃、うちの先生馬鹿に薩張りしてまたお通りだ」こいふやうでも困りませう。しかし若し子供の方が凡ゆる不用意から、凡ゆるものを受け取るならば、それもまた面白いものでありませうが、普通の幼ない子供に對しての不用意はさういふ不用意ではなくて、子供と大人と共通なる問題に對して、雙方が不用意なる機會を作つて來なければならぬ。禪宗の寺へでも行くに禪僧がこちらから一人來る、あちらからも來る、さうして行き會つても合顧みもせずしてさつゝ行つてしまふ。其處に非常の力がある。しかし子供の教育においては其處まで禪味を發揮してはさうも仕方があり、不用意ではあるがその不用意と不用意とがぶつかるところに意義がある。

月天真座頭つきあたり笑ひけり

こいふ句が蕪村にあります。冬か秋の末でありませう。こちらから座頭が來る、またあちらからも座頭が來る、みんな打つかつては、つゝ笑つて去つて終ふ。傍から見れば月があるのに打つかつたこいふ不用意の面白さがある。この不用意と不用意を打つゝけ合す機會とて、さつちからか先へ出發した怪我さいふものは非常に有害なものでありませう。さつちから先へ出發してはいけません。雙方が或一つのこゝこによつて不用意に或感じを起し、また一方も或感じを起し、それが或問題を中心として打つかるこいふ風でなければいけない。露天保育で野原を歩いて居れば、その機會が與へられる。

しかし窮屈に限定された教室ではそれはなか／＼出來ません。總てのものが先生が先へ作つて置いたものですから、教場で不用意を出さうと思つても先生には出て來ない。何か机の上に花を一輪活け、今日は子供にこの中から一つの興味を引

き出させ、さうしてそれによつて教育をして行かうといふ考へをもつて花を置いて置きます。さうするに子供はその花を見て、或自發的の興味を其處に引き出さうとする。それを見て先生は自分の與へようとした目的にうまく嵌つたと思ふ。さうするに子供はまた先生が出たなと思つた瞬間に折角出かゝつた自發性は引込んで終ふといふことになります。しかし先生に子供が不用意に野道を歩いてゐる時に驚が鳴く。これは先生の計畫して置いたのではない、驚は驚かしていい聲で勝手に鳴いてゐる。それを子供も先生も同時に聞いて「いゝですね」打つたところに不用意の、しかも二人の生活が引つ張り合ふところの機會が選ばれて來るので、この兩方が不用意で、しかも離ればなれにならずに、この生活の或斷片を持たうとするために非常に都合のいゝことになるといふことを思ふのであります。子供の方から申しますならば、子供自身が無理な状態に置かれなために、教育者の方から申しますならば教育それ自身が自分の計畫の中に自分を取込まないために、随つてその教育者に教育される子供の間に、何でも計畫ばかりのしつこい中に膠つけられるやうなことが起らずして、不用意といふものゝもつてゐる、しかも打つかり合ふところの野といふもの、野外といふもの、或は道路といふものが、實によい場所であるといふことを思ふのであります。

六

これは大體露天保育、或は家なき幼稚園といふものゝ値打を、教育の働きの方から考へたお話であります。受ける方の子供、與へる方の教育者、要するに其處に教育の働きといふものがあるのでありますが、その教育の働きといふものゝ基を考へて、以上の教育原理が發揮されて行くのであります。しかも更に教育の内容の方からこの露天保育といふものゝ價值、或は長所といふものが、さう考へられるかといふことは、その次に起つて來る問題であります。

この露天保育といふものゝ教育の内容價值といふものは、子供の身體上に及ぼすところの所謂衛生上といふか、健康上

云ひますか、或は體育上云ひますか、さういふ方面の發達においてはいふまでもないことでもあります。存分に日光にあたり、よい空氣の中で、自由に駆けめぐるここの出来るこいふこことよつて子供の健康が、空氣の悪い、窮屈に腰をかけてゐる室内教育と大變違つた結果を來すこことは、これは申すまでもないことでありませう。其處で露天教育が子供の衛生のために、健康のためにいゝこいふこことは特に申上げる必要はないと思ひます。

然して此の他にさういふ效果、又長所が残つてゐるかこいふこ、これについてはいろ／＼のこことが考へられるので、例へば問題を狭く限つて行くなれば、博物教授さいつたやうな立場からいひます時に、戸外の教育が非常に好都合であるこいふこことは勿論いふまでもありません。今日でも他の學科の先生は子供を教室において教育することに努めますが、自然科学の先生は戸外そとに連れ出すこことは普通のこことであります。標本をもつて來て見せるよりも、生きた自然に接せしむる方が科學としても便利であるこいふこことは申すまでもありません。併ながら自然さいふものに子供を接觸させて行く利益さいふものは、或は博物的知識を與へるこいふ方の價值、或は自然によつて身體が健康になつて來るこいふ生理上の價值なごの外ほかに、もつて非常に深いこいふか微妙さいふか、或重要なものがあるこいふこことを思つていゝこ思ふのであります。

今日我々はこの自然を離れてしまつた生活をやつて居りますが、自然さいふものは我々が想像する以上に我々に深い密接な關係をもつて、人間の生活を支配して居るこことが感ぜられます。或は自然の宗教さいふやうな形において人間の生活の上感ぜられ、また自然の教訓さいふやうな意味において感ぜられ、また或は自然の詩さいふやうな意味において感ぜられたり、その人によつていろ／＼な感じ方、現はし方をしますが、兎に角非常に深いこころにおいて人間の生活に意義をもつて來るこいふこことは誰でも思ふこことであるこ思ひます。その自然が人間に非常に深い關係をもつて來るこいふこことを、殊に子供の案件について考へて見ますならば、子供は自然によつて多くの利益を受けるこいふここの外に、自然に向

つて最も親しみ得るところの自然の直線の交渉を、自分の心に感じて行くこゝの出来る。非常に都合がいゝこゝいふ言葉は打算的言ひ方でありますが、つまりさういふ心の状態であると思ふのであります。其處で我々が自然から教訓や利益を得るこゝいふこゝよりも何層倍か細やかな、そんなに深くもなく、大きくもありませんまいが、細やかな意味において自然からいろいろなものの子供が受け入れるこゝは、これは想像出来ると思ひます。この自然から子供が受け取つて行くこゝのいろいろの意味、或は利益、或は内容こゝいふものは、自然に關する標本を持つて來ても、寫眞をもつて來ても、繪を見て、話をして聞かせましても、それによつては到底出来ないこゝで、さうしても自然の世界へ子供を連れて行くこゝの外に出来ないこゝであります。この自然こゝいふものに直接に子供を觸れさせて、自然がもつてゐるこゝの眞生命を子供に與へて行くこゝいふ意味におきまして戸外の露天保育こゝいふものが非常な意義と價值をもつてゐるこゝいふこゝは、殆んど云ひ現はしようもない細かさ深さをもつてゐるものではないかと思ひます。

今日教育において戸外が必要であるこゝいふこゝは誰もいふこゝであります。殊に身體の弱い子供の爲めに、衛生上の立場から、戸外生活を主張し、或は戸外學校とか、屋上學校とか、所謂オープンエヤスクールこゝいふこゝは誰もがこゝであります。併ながら戸外へ出て子供が戸外から受ける利益は、その中に日光、酸素こゝいふやうなものが子供の生理的及び心理的方面に及ぼすこゝいふだけでは決してなく、自然に直接に觸れるこゝによつて、子供の一種の靈感でも申しますか、スピリチュアこゝいふ方面に非常の影響を及ぼします。さういふ意味から戸外の教育こゝいふものに對して餘程意義を感じるこゝが出来ます。

この他に子供のスピリチュアこゝいふ方面に及ぼす自然の影響こゝいふものは、どんな性質でどんな種類のものであるか、これをいろいろ分解するこゝが出来ると思ひます。

まづ第一は自然がもつてゐる美しさ、即ち自然美を申しませうか、片方に翠の色があり、片方に桃色があり、蒼い空があり、その下にまた白い砂があるといふ、自然の色彩及び形態、調和等から来るところの美しいものは、單に色それ自身、或は形それ自身として我々の心に一種の影響及び、快感を與へるばかりでなくして、その色彩を透し、形を通し、調和を通して我々の中に非常にかなる心の感觸といふか一種の感じを作つて来る大きな力をもつてゐるものであります。自然のもつ、あの色も形は實に上つ皮の色紙いろがみに現はれたる色、或は着物に現はれたる形の如き一種の興味本位において、淺薄なる玩弄的意味において、それを樂しまうとするやうな心を打ち破りまして可なり深いところを子供の心の中に及ぼして、その子供の感觸の細かさといふものを養ふ上に大きな影響をもつてゐる美しいところは、これは今日我がの屢次聞きますところの藝術教育或は情操教育といふやうな問題に、餘程深い關係をもつて我々に考へられる問題ではないかと思ふのであります。

今日は藝術教育といふところが非常に盛でありまして、所謂美に關する方面の教育を子供に與へなければならぬといふことを時に云ひますが、これは勿論非常に大切なことでありまして、藝術教育は何處までも我々が力を盡さなければならぬことでもあります。ところがその藝術教育といふものゝ本當の目的は、何處にあるかといふに、藝術教育は、藝術といふ形において現はれた色の美、形の美、或は旋律の美しいものを美術の形として受取らせることだけが藝術教育の本位ではないのであります。藝術を理解し藝術として味はふといふ意味に、若し止まるならば、藝術教育は我々の教育する所謂普通一般の子供の教育には、それほど重大な價值をもつて來ません。また特殊なる人間の技能、特殊なる力としてさういふ方面の養成をしようといふやうな意味でありましたならばその場合における藝術教育は、藝術を藝術として味ひ、また創作するところの力を養ふところの目的を達することでありませうが、一般の子供の人性教育として考へる藝術教育の重要

さは、その藝術教育によつて人間性そのものゝ深いところの教育をして行かうまいふものが目的ではないかと思ひます。色を與へるこゝによつて色に關する知識を得、形を鑑識するこゝの能力が發達したのではない。藝術教育を與へられたために音楽を聽く耳が出来たまいふこゝではない。それでは藝術教育の本當の深いところには行きませんから、まづ子供の眼を教育し、耳を訓練し、旋律に對する微妙な練習を與へる場合もありませうが、若し藝術が其處に止まつて藝術教育を受けるこゝによつて、所謂感覺の鑑賞に關する方面の能力だけが發達したまいふならば、これは特別な教養として意義のあるこゝではありませうが、人間教養としては其處に止まるのは甚だいけないのであります。のみならず更に考へなければならぬこゝは藝術教育まいふものは理論的にはその美しい色や形や形やを通して、人間性そのものゝ奥底に教育効果を與へて行く筈のものでありますけれども、時にはその藝術教育を與へる人の如何によつて、單に子供の眼を藝術に馴れしめ、耳を藝術的ならしめ、身體の動作を藝術的ならしめ、所謂藝術の藝術としての根本を與へるに止まり、深い人間性の教育は出来なくなるまいふこゝも起るのであります。私は理論的に考へられた藝術は人間性の奥底に發するものであつて、美しい繪が描けるまいふこゝも、その繪が單に美しいばかりでなく、もう一つ深い人間性の奥底に觸れた、その人だから流石に色が明るいとか、人間性がデリケートだから繪が細かいまいふものがある筈だと思ふのであります。實際は必ずしもさうならないところに實に藝術教育の難かしいところがあります。所謂藝術教育が、時に道樂教育となり、或は通人教育となり、デレタントとなるまいふ危険は、つまりこの點を指示するものであります。

子供が繪が非常に美しく描けるまいふこゝは、その繪の描けるまいふこゝによつて人間性の奥底が養はれ、それが養はれたから美しき繪が描けるまいふこゝは教育としての藝術教育としては我々は希望します。こゝろがぎょうも繪の描ける、或は色の判る、音の聞える、音楽や、踊のうまいまいふに止まつて、人間性の奥底まで行かない、趣味的な教養をあまり

受けなかつたならば却つて眞純な人間性の訓練が出来たと思ふやうなことが屢次あるのでありますが、これは藝術教育の缺點ではなくも遣方の間違いで、其處に屢次いろいろの弊が起ります。併ながら藝術教育を以て美しい色が判り、繪を樂しみ得、趣味の高い人、趣味の進んだ人を作り、その人の趣味性に基いて人間の生活の上に多少心靜かなものを與へるこいふならばこれは異論はない。藝術教育はあの藝術に現れた特別の力によつてゞなければ出来ない人間性の教育をしてやるのが藝術教育で我々は藝術によつて藝術を教育しやうと思ふのではなくて、人間性そのものゝ眞純なる教育を狙つてゐるのであります。それでいろいろの方法をやりますが、さうも本當の深い細かいところまで行き得ない、その他の方法では到達し得ないものを偉い藝術家の描きました繪によつて、或は音樂の曲によつて、子供の人間性の奥底に、或教育の効果を來すこいふことが、藝術教育だとするならば、我々の藝術教育の時に誤り易いものがあることを發見されるかと思ひます。藝術の有つてゐる特殊なる力によつて子供の人間性そのものゝ奥底が教育されて行くとするならば、藝術を尊重すると同様の尊重を自然に向けなければならぬこいふことは云ふまでもないこいふ思ひます。私はいつでも思ふのでありますが、今日の我々のやつて居ります教育において實に足りないと思ひ、さうしても我々所謂教育者の力では出来な何ものかに頼らなければならぬものが三つあります。即ち藝術と宗教と自然のこの三つで、これ等は我々教育者の教育こいふ範圍内ではなし得ざるころの深い力であります。其處で我々は自分の教育を本當の人間性の深きまでの教育として考へるならば、さうしてもこの三つに頼つて、これを背景として、さうして自分の足りないところを補つて貰はうこいふことが痛切に感ぜられるのであります。その一つの自然については、今日非常に盛であるころの傾向は藝術教育であります。若し藝術教育こいふものを今申上げたものゝ解して間違いないものゝしたならば、直ぐに移して自然を子供に與へるこいふこいふによつて價値を認めるこいふことが出来ると思ふのであります。しかも今日の教育において子供に自然を與

へるために力を盡してゐるさいふこは實に少ないのであります。子供の身體のために自然が大切なこ位は知つて居ります。自然に關する博物的知識を興へるこが必要ださいふこ位は知つて居ります。しかし自然の生命に頼らねば出来ないある教育が、我々自身には出来ないで、自然によれば出来るさいふその意味において、教育が自然に行つて額づくさいふこは非常に缺けてゐるので、この缺けてゐるものが露天保育、戶外教育においては自ら興へられて來るのではないかと思ひます。更に自然さいふものが人間性に及ぼして來る、その大きな効果は、自然のもつて居ります所謂自然美さいふものが、子供の心に影響を興へるさいふこの外に、もう一つ非常に大事なこがあるのではないかと思ひます。

八

自然さいふものが子供に興へて來ますこころの、或は人間に興へる効果は、その自然の表面に現はれてゐる、あの色さか形さか、調和さかいふ、所謂美さ名付け得らるゝこころの現はれの外に、適當なる言廻し方を充分にすることが出來ませんが、自然が自然であるさいふこ自身、それが人間性に興へる大きな意義であります。例へば野に行き、一輪の花が咲いてゐるのを見て、全く何の感じもない人、その自然に觸れるここの出來ない人は、自然を見て居りながら實は何にも見ない人です。しかし一步進んだ人は、あの色が美しいさか、枝振が美しいさか、その自然美を鑑賞し影響を受けます。併ながら自然の自然たる意義はたゞさういふ姿をして存在して居るさいふこ自身です。誰が拵へたのでもなく、何の爲に拵へたのでもなく、又自ら其處に在らうこする人爲的努力によつて存在するのでもなく、たゞそれ自身が、その姿を、あるが儘に存在して居るさいふ、この大きな事實こそが自然の我々に興へる大きな意義であります。言ひ現はし足りないこを恐れますが、例へば都會生活をしてゐるものが久振で山を見ますこ、はじめはその色を見、或は形を考へます。併ながらその山に對し、その山の上に在る時には形や色を離れて、或大きなものがあるさいふこを誰でも感じます。それは

山の巖そかなこゝ、大きなこゝ、高いこゝが壓迫してゐるからだ云ひますが、こちたき理窟も、論議を離れて、自然が自然であるといふこゝは、これが非常に深い意味をもつてゐるのだと思ひます。

私共の日常の生活は、實に理由なき生活を殆んきもち得ない。結果を來さざる生活を殆んき爲し得ないのであります。何のために存在し、何になるかといふこゝを離れて我々の生活は殆んきないといつてよいのであります。理由も結果もの中に、總てのものが小さくくされてゐるその中に、發見されて行くものは論理的必然であります。論理上の必然を辿る時に、必然の結果として多少大きな結果を豫想するこゝが出來ます。しかもその論理的の委しき正確さを辿つて行つて、その必然に到達した時に、稍や廣い世界に出なければも、其處を通つて行くといふこゝによつて我々の小さい苦しさを感じるのであります。こゝろが必然よりももう一つ大きな基になつてゐる自然であるといふこゝは、實に深い意味をもつて我々の心に觸れてゐる。我々は教育によつて人間をいろくよくして行かうと努力して居るに相違ないのであります。併ながら私は屢次思ひます。教育をするこゝによつて人間を良くして行かうと思つてゐるが、さうも教育をするこゝによつて、自分の力で物をさう作り得るか、他人をさう捌き得るかといふ能力以外のものになるか、我々の教育の總ての場合において危ないこゝであります。人間の能力を教育によつてだんく進めて行くときに、能力としては非常に優れた或力を與へたのでありませうが、遂に能力以上一步も出るこゝの出來ない教育ならば、これが本當の人間教育の全部であるかどうかといふこゝを終始心配するものであります。我々はまた、この能力或は智力、技倆を通じて行つてだんく終ひにその能力から徹底したこゝろの或大きな世界に人間を歸すこゝだと思ふのであります。それが果して我々の教育といふ拵へこゝによつて何處まで出來るものかといふこゝは常に氣になるこゝであります。其處で我々から見ますならば、教育を受けてゐないから駄目だとも云へますが、また教育を受けてゐないから自然だといふ強味ももつてゐるあの小さな

子供に、その自然を失はせないで、本當の自然から自然へ導いて行く道はないか考へます時に、あの自然から出て來た子供を我々の手で教育して、また自然へ歸すさいふこころはなかく難かしい。のみならず自然から出たものを自然のままで行く方法はないのであらうか考へますが、これ等は我々が教育を棄て終ふさいふ譯ではなく、教育は教育としてしなければならぬ人間のベストですが、同時に自然そのものゝ有つてゐる自然さを持ち耐へさせて行くこころは出來ないだらうか考へるのであります。

此處には教育者の方もおるでございませう。そして貴女方もさういふ感じをお有ちになりませう。先程も申しましたやうに我々は子供の前に出るに、子供が煩さがりはしないかさいふ想像をもつてゐる。同時に我々は子供の前に立ちました時に、實に細工以上何物をもなし得ないさいふこころを思ひます。細工は目的ではなくて手段ださいふこころは知つてゐますが、細工以上何物をもなし得ないさいふこころを染々感じ、いろ／＼工夫を凝らして教へてゐながら何さいふ細工に止まるこころの小さな生活を子供に強ゆるのだらうと思ふのであります。

このお話は青年の教育で、少し子供の教育とは違ひますが、一昨日實際に経験したこころを一寸お話して見たいと思ひます。恰度私が教場へはいりました時に、ふし或生徒の顔を見合せました。するにその生徒が私の顔をちつと睨みます。私もその生徒の方をちつと睨んで暫くの間二人で睨めつこころをしてゐました。その時私はこれで教育が出來たらよいがさいふこころを思ひました。教育をしやうとすれば、今この私と學生とが睨めつこころをしてゐる世界から、斯うしてあゝしてさいふ細工の世界へ移らなければならぬさいふこころは非常に物足らなく感ずるこころで、それを私は痛切に感じました。しかし雙方が偉ければそれで解決が出來る問題でありませうが、普通の人間では自然の接觸さいふやうな、自然によつて自然が育てられて行くさいふやうなこころはさうしても出來るこころではありません。普通の人間はたゞ一生懸命教育して、一生懸

命細工するに過ぎない。要するに我々の教育は細工ばかりやつてゐる。細工が與へるものは恐らく細工以上には一步も出ないだらうさいふこは我々は恐ろしいほごに感ずるのであります。

私が細工なしで生徒二人で歩いてゐても、空を見給へ、山を見給へ、さいつて見せたのでは仕方がない。二人が歩いてゐるうちに同時に樹を見る、花を見る。さうした時に實に無細工の世界が私の前にも亦生徒の前にも展開される。その無細工の世界において何ものを得るかなぎふいふそんな、細かい問題ではない。その細工のないところの自然さそれ自身が或印象をそれに與へて來るに相違ない。これは少し深いところまで教育を考へてゐるものに直ぐ感じられることあります。

フレールは矢張りそれを感じてゐたのではないかと思ひます。部屋の中で子供の教育をしてゐる時に、野原の自然の空氣の中に子供を連れて行つたさいふこは、一室の窮屈な中から遁れたさいふ消極的のこみではない。また無理から逃げて行く解放さいふやうな意味ではない、たゞさうすることによつて、あの理窟を云はない、作爲のない自然に行くさいふこみだけで充分なのであります。

しかしそんな話は話さしてはそれでいゝが、そんなこみが四つや七つの子供に判るかさいふ御質問が出るだらうかも知れませんが私は實に子供は我々よりもごんなにか深く、ごんなにか眞實に、この自然の自然さを受取る力があるのださいふこを信ずるのであります。今日の學校或は幼稚園において、さういふ意味のこみをしようとするこ非常に難かしくて出来難いのであります。今日行はれて居ります藝術教育が其處までのこみを考へて居るかさうか知りませんが、藝術教育さいふものゝ奥底を考へて見ますれば、やはり藝術教育は此處を狙つてゐるのではなからうかと思ひます。若し音樂を聽かせて置いて、あそこをお聞きなさいと説明が出来る範圍のものであつたら、本當の藝術教育さいふものは出来ない。

藝術教育が本當に出来る範圍は人の描いたものではあるが、作爲を通り越して藝術家だけが有ち得るまことの自然さ、即ち或偉大なる力をもつてゐる藝術品が子供に與へられ、綺麗さかうまいまかさいふこを超越してゐるもの、又は音楽によつて子供を教育する人間性の教育、藝術教育の奥深いところが期待されると思ふのであります。若し藝術教育もさういふ効果がありまするならばはじめから人の描した繪でなく、自然そのものゝ自然さに接觸されるまいふこは非常な深い意味を有つてゐるのではないかと思ひます。

九

斯ういふ風に考へて來ますまいふこ、戸外へ子供を連れ出すまいふこが、我々の豫想し得ない非常な或意味を子供に與へられてゐるのだまいふこを思ひ得るのであります。其處でこの自然をして人間性の奥底までの影響を與へさせようまいふ時に、自然を時々子供に與へるか、始終與へるかまいふ問題が起つて來るのであります。子供に時々自然を與へるまいふこは子供をして自然の効果を意識させる上においては非常に利目があるのであります。併ながらお話は元にかへりませんが、意識するまいふこが一種の故らな心持に近いものであるまするならば、其處に自然に與へられた効果を自然の前に得るまいふこ、或は自然から教訓を受けつゝあるまいふこを自分で意識するまいふこは既に一種の故らの状態であります。自然まいふものがそんなに非常に効果があるならば時々自然を見せたらいゝぢやないかまいふこを考へられるのですが、自然が自然であるまいふこは子供をして自然に、自然的に接觸せしめ、自然的に受取らしむるに非ざれば本當に徹底して來ないと思ひます。皆さんが名所を見物にいらつしやる時にいろくゝな利益を受けませう。或はまた、その得たまことを特に文に綴るまか、歌に現はすまかなざるならば、それが自分にも他人ひとにもまいふ風に自分が自然に接したまいふこはつきりませう。併ながらその自然まいふものゝ眞實な影響は損はれてゐるま申しませうか或

は眞純さを失つてゐるまいふか、さういふこゝが起り易いのであります。其處で子供をして自然なる影響を自然から受けさせる爲には自然の中にあるまいふこゝすら知らしめない程常に自然の中にあらせなければならぬまいふこゝが論理上の必要條件になつて來ます。

この條件を充たすためにいろ／＼な方法をとり得ると思ひますが、殊に家なき幼稚園、露天保育といふものは非常に便利な方法と思はざるを得ないのであります。斯くの如くして自然から人間性の奥深い或一つの教育を子供が受けてそれが終ひにさうなるであらうかといふ問題を考へて見ます時に、それは甚だ他愛ないこゝになるのであります。其處で得たこゝろの利益が上級の學校に行き、入學試験の時に少しも役に立たない、或はこの世の中に出て活動する上に恐らく何の益にもならない、たゞその子供をして所謂眞實なる人間性に生かされるまいふこゝだけのこゝに止まるのであります。それ以外何の資本にもなるのではないのであります。併ながら今日我々が子供のために計劃はかつてゐるこゝろの總てのこゝが要するに子供の生活に資本となるものばかり與へるまいふこゝは一考を要します。或は手近なこゝろで入學試験のこゝろ、か又は卒業してさうなるこゝろであるかとか、或は世に出てさうなるこゝろであるか、總てこの生活に役に立つこゝろの意味ばかりを、我々は子供に與へる、もつゝ極端にいひますならば、今日の藝術教育といふものさへも、さうすることにうつさう役に立つまいふこゝを説かなければ承知出来ないやうな氣分がある。藝術教育ばかりではない。宗教々育といふものも、受けるこゝろの効果を生活資本として考へるこゝすら時にあります。總ての我々の努力が子供を幸福にする、若くは發達させるを稱して、或は子供に利益を與へるを稱して、悉く子供の生活それ自身として内的に幸福ならしめ、それ自身として充實せしめるまいふこゝろではなくして、生活としての第二義的の價値において常に子供にいろ／＼なこゝろをして居るのであります。我々は非常な理想論をする譯ではありませんが、さういふ生活、さういふ教育を始終して居りま

す時に、その眞純なる生活から育つて行くところの眞純なる人間性の生活さいふものを子供の前に用意するところの用意は我々にあつてもよいかと思ふので、それを與へるために私共は消極的に云へば不用意なる、或は作爲のない、積極的に云へば自然が自然さにおいて子供に打^つつかつて行くところのものを始終我々は考へてゐなければならぬのであります。それが我々のなし得る範圍においては、露天保育において認められるのであります。

十

假に露天保育、家なき幼稚園は不必要なものではあるまいかといふ説も出ませうが、勿論家なき幼稚園さか露天保育さいふものは、家のないさいふこゝ、それ自身にこだわつてゐるものではないと思ひます。さうして家さいふ建物によつて生じて来るこゝろの教育上の眞實なる教育としての或缺點を遁れやうかと思つて、その正直なる惱みさいひひますか、眞實なる努力さいひひますか、さういふものが見出したこゝろの一つの道が家なき幼稚園、或は露天保育であるさ考へるのであります。若しこゝに非常に偉い方がありまして、その人は家の中に居れども家を超越してしまふ。窮屈な教場にはいつて机に腰をかけさせてはゐるが、その先生が前に立つて天井も柱も壁もなくなつて、實に天空快濶な心持に子供が自然さなれる。あの先生の云はれるこゝろは口を開けば野の聲がする。あの先生の一舉一動には野の廣やかさを見るこゝろが出来る。そして其處には作爲は一つもない、たゞ壁と天井をつき破るこゝろの自然さがその先生にあつて、子供を自然に置くだけの力を有つ人ならば、家の有無はそんな大きな問題では無くなつて来ると思ひます。今日の所謂學校、所謂幼稚園においては我々人間の教育者としての足りないこゝろを建築によつて補つて行かうかといふ、その方法に長く進んで来たのであります。教授をしてゐるうちに何處かへ子供が行つてしまつては困るから壁で仕切りをして見たり、ばた／＼飛び出しては困るから席を與へて見たり、畢竟教師の教育上の微力を補ふ手段としていろ／＼なものを工夫して来た努力であります。

まところが今日はあまり工夫努力が進んでしまつて、終には教育者が自分が教育をするんだまいふ本體を忘れて、補助の方に重きを置いて、それが無ければ何にも出来なくなつてしまつた。その壁や教壇によつて漸くに教育をしてゐながら自分でしてゐるま思つてゐるのであります。まところが或人がそれについて妙な感じを起し、いろいろ考へた結果、机や壁が非常に邪魔になるまいふまことに気がつき、一緒に野原へ行かうぢやないか、一緒に往來を歩かうぢやないかまいふまところに行きついたのであります。私はこの意味において家なき幼稚園或は露天保育まいふものは、今日の建築をもつて居るまところの教育機關を悉く潰してしまつて、野外教育にしなければならんまいふ譯のものではないま思ひます。

私は露天まか戸外まいふまことに實にいろいろな意味を感ずるのであります。露天まいふ言葉から直ぐに出て来る最も大きな一つの聯想は基督の言葉であります。基督は殿堂はなくても祈禱いのちは出来る、何處で禱つてもいゝのであるまいつてゐます。それは多分心持を纏めようま思つて作つた會堂そのものが主になり過ぎるまいふまことに對して、寧ろ野でもいゝ、野に行かうまいふ意味であるま思ひます。露天保育も同じやうな意味に解釋してよいま思ひます。何も建物があつてはならん、學校があつてはいけぬまいふ破壊的運動ではない、今日の教育が正直なる教育者があつてまところの妙な感じ、即ち子供を前に置いて態まらしい心において教育をして居つた人が、一寸眞實の心に歸つた時、いろいろの疑ひが起る。或は自分の立案はいゝけれまも折角の子供に自然に出て来る教育の機會を無視してゐるまいふまことはないだらうかま悶へたり、或はいろ／＼なまを作りつくりて教へてゐるが、下手な役者がこれでも感じないか、これでも感じないかま力りきんでゐるま同じやうに教へてゐるが、これでいゝのかしら、まうも本當に子供を教育するまことが出来ないま悩み出した時に、自然まそのものに基いて行くまは出来ないかま思つて、正直なる現代教育の悩みを徹底させたものが露天保育ではないかま思ふのであります。この意味で露天保育はこれに従事するま人のために意義ある問題であり、教育の一種ではありませう。

三角の學校を建てるか野原でやるかといふやうな教育の一部分ではありませうが、今日の總ての正直なる教育者自身が悩み悩んでゐる悩みの一つの活路であります。

十一

この意味で家なき幼稚園、露天保育は教育全體の共通なる一つの大きな問題を我々の心に與へて呉れる意義あるものではないかと思ひます。貴女方が橋詰さんのやつて居られる「家なき幼稚園」或は大坂に在る露天保育を御覽になつた時に感じになるこゝと思ひますが、教育の道實に廣して、いろ／＼な方法がありませう。そしてまたその方法としてはこの方法も皆さうせ不完全な方法で、家の中に入れて置けば怪我をしないが、野外ではたまには怪我をしませう。ごちらにも何れ缺點はありませうが、その一つの方法としてこの問題を追窮するのではなくて、教育者が眞實なる兒童性そのものに眞實に觸れて行つた時、其處に生ずる正直なる悩みが越く一つの道として、我々は意義あるものと思ふのであります。若し建物の中で本當の露天の如き保育が出来る方があつたならば、これはまた非常に優れた偉大な方であらうと思ひます。さうしても建物が邪魔ならば野に出てまいらせう。さうしてまた建物に歸るならば、その心持でもう一つ建物を活かす方法があると思ひます。露天保育につき私の感じました點を申し上げます、その問題それ自身といふものよりも、この問題によつて我々の教育そのものを考へて見た次第であります。(完)

小學校と幼稚園との連絡問題

東京市鐵砲洲尋常小學校長
同 幼稚園長

久保田 龜藏

私達の仕事は直接には幼児の教育であるけれども、其子供は單獨なる存在ではなくて、家庭の子供であり郷土の子供であるから、家庭や郷土を考へぬ幼児教育は有り得ない。

又子供は外界の状況より受ける影響が非常に大なるもの故小學校及幼稚園内の環境を完全なものにし、子供を其中で生活させることが大切な條件である。

然るに従來教育者の考が狭かつた爲めに、教育の對象を單なる子供と見て、それだけに力を用ひたから、比較的効績が擧らなかつたのではあるまいか。

小學校と幼稚園とが同一の場所に設置されて、同一方針のもに教育するならば、學園全體を通じて一大調和せる學園内社會を先づ職員間に於て作るべきに、往々にして職員相互の圓滿を缺き統一を失ふところのあるは、教育者自身が團體精神を充分に會得せぬ爲めで、更に一面には幼稚園の普及が比較的後れたにも係らず組人數少く教育方法が自由で進歩的であるに由るのではあるまいか。

總て物事は幾多の事情が關聯して生ずること故、小學校と幼稚園との連絡にて單に一部分的の考察や施設だけでは解決は出來ぬ。即ち其根元を存する處の教育の本質を究め更に其關係ある學園内外の調和統一を圖らねばならぬ。通學區域を對象とし學園が中心となつて其土地の總ての人に教育を施すといふ考のもに努力するところに眞の教育は行はれる。

第一 教育の仕事

一、教師は自己完成に努むること

大學に「修身齊家治國平天下」を教へられた様に教育の道は「教育者自らの修養」を第一と心得ねばならぬ。完成された人格者にして始めて教育者たり得るものであるが、然し我々は現在教育の職にある。これは非常に苦しいことで、毎日子供に接しては其苦しみを慙愧を感じつゝ止むなく勤めて居る故に修養に修養を重ねて、この不完全を少しでも完全の域に達せんものと努力精進して漸く責をのがれ心を慰めてゐるわけである。又子供は成長伸展の旺盛なもの故教師もそれに伴ふ發展を圖りつゝあるものでなければならぬ。不完全さに於ては子供よりは僅かに調つた程度であつても價值創造には日夜苦心して其進歩の著しい先生でなければならぬ。

斯様な先生達で作られた學園は理想的なもので、其中に子供を入れれば子供は自然に大きく伸びるけれども若しも職員の修養足らず小さく固まつて惰性生活に日々を過す様では人を教へ導く資格がない。

故に私は本問題の眞諦即ち教育の眞髓は教師の修養にありと痛感するものである。

二、實踐指導に努むること

幼少年時代の未發達期には何事も批判なしに模倣して之を身に行ふものであるから、親や教師は一言一行に最大の注意を拂はねばならぬ。自分の缺陷から思ひがけぬ事の子供に及んだのに驚くことが度々ある。實に恐ろしいものである。故に教師は常に注意してよい手本を示す心がけ自然々々感化誘導すべきである。

小學校や幼稚園は子供達のよい遊び場でありよい仕事場であり、先生はよいお友達でありたい。私達先生はありのまゝの姿でよい指導者であり、よいお相手でありたい。狭い小さい考から「計ひ」をなしたり無理強いを爲して壓迫する様では

子供の純眞を害ふこゝが多く眞の教育は出来ない。

「子供の生活を生活によつて生活に導く」といふこゝは實に味のある語で、それには「よく整つた先生が子供の仲間入りをして共に生活するのが最もよい。親和せる家庭で立派な親の手元で育つた子女は必ず善良有爲の人となる様に、學園の良風よよい先生によつて指導された子供にして始めて人格の完成を爲し得るものである。

三、先づ其の子を知れ

自分の現在教へつゝある子供はどんな子供であるかを充分に知つた上でなければ適當な指導は出来ぬ。天性と特異性を知る爲めに種々の方法を講ずるが、過去の經歷を調べてこの子の現在の姿を知るのも一方法で更に將來の方向まで豫定した上教育方針を決定せねばならぬ。

若しも其子の過去及將來を考察せずに單に教師の獨斷的方针に依つて其時だけの教育を爲せば、其効果擧らぬ許りでなく將來を害ふに至る。即ち幼稚園では少くも從來の家庭生活を現在の家庭環境を考へ更に満了後小學校一年生の狀況をも考へて現在の教育を爲すべく、小學校では幼稚園時代の狀況を現在の家庭環境を考へ更に卒業後の方向迄も考へて現在の教育を施すのが當然なる仕事である。

こゝろが學園教育は一人の子供に對して幾人かの教師が手をかけるから従つて學園には全期間を通して一貫せる方針があつて、然も其時々指導の任に當る者はよく前後の見通しを立て相關聯した教育を爲すべきである。

若し出来得るならば教育の始期より終了迄同一場所同一方針によつて營むのが得策である。兎に角幼稚園と小學校とが別々に考へる様では到底教育は出来ぬので、其子の一生を通じて縦の連絡の大切なこゝは明瞭である。

四、學園中心の教育

全職員會議 一週一回 水曜日

各學年會議及保姆會議 一週一回

學年主任會議(主任保姆列席) 二週一回

低學年打合會(保姆列席)

中學年打合會 } 月一回

高學年打合會

訓練會議 (主任保姆列席) 月一回

各學科研究會(保姆列席) 月一回

3、相互參觀

一年さ幼稚園とは特に參觀を主視し訓練方面の打合をなす。

4、職員親睦會

全職員これに入會し訓導保姆の區別をせぬ。

二、設備及備品

1、學園内の設備及備品は皆共通にして、互に譲り合つて使用する。但し購入及管理等は別途なるも取扱ひに於ては何等の區別をせず。常に學園全體から見て適當に處理す。購入に當りては特に全體より見て不便なき様考慮する。

2、運動場及各室廊下等學園内一切の使用は幼稚園も考慮して時間割を作製し全部に互つて都合よく配當す。唱歌室、理科室、手工室等も園兒に使用させる。

3、特に幼學年生及園兒は小公園の使用を多くし、廣い場所外外氣日光にふれさせる様仕向ける。

三、學園内の社會生活

1、學園全體の子供は互に親しみ合ひ助け合ふて、億兆一心の精神を涵養する様に努める。

特に幼弱者に對しては弟妹の如き考を以て勞はり、登校下校の際は勿論、學園内に在る間も常に親切に世話する様仕向けてゐる。時に上學年兒が作業をなす場合に幼學年兒及園兒等集り來ても其仕事に支障なき限り其まゝに放任しおきて之を見習はせる態度をさる爲め園兒を邪魔扱ひは決してせぬ。極めてなごやかなり。

2、學園内の教育大方針は一定にして何れの學年も之を守り、其學年、年齢、智能等によりて其時々に適する方法を講ず。即ち園兒に對しては遊びを主として自由快活たらしめ、一二學年に及んで漸く團體的動作を加へ、三四學年に鍛鍊的行動、五六學年に自治自律の完成を期する様定めて全職員この大方針に従ふ故子供等も皆段階をふんで成長する。

3、當園滿了生は入學以前既に特殊の教育を受けたもの故、これだけで一學級を編成す。この編成法は相當議論のあることなれども種々の點より考へて、それが一番效果的なりと信じて行つてゐる。従つて幼稚園學級に對しては特別な指導を行つてゐる。殊に入學當初一學期間は全然違つた取扱をなしてゐる。當校では幼稚園の設立日尙淺い爲め現在は三學年生まであるから充分な比較研究は出來上らねど兎に角幼稚園組は一般的に自發的で進取的で快活で自治の精神に富んでゐる様である。

4、幼稚園では一組五十人を二人の保姆が指導するけれども小學校に入るに他園滿了生を加へて六十人を一人の教師が擔當するから自然に統制ある生活を一層行はねばならぬ處から、滿了期に及んだ第三學期には餘程一年生の生活に似通つた生活を營ませて其間の取扱を圓滿にする。

5、學園内の兒童幼兒の服裝は一定してゐる。其目的や効果は種々あるが、團體精神涵養の上にも多大の便があると思ふ。即ち小學校では男子は學生服に帽章、女子は外被に校章、幼稚園では外被を定めてゐる。

たゞ小學校と幼稚園とは地質色合に差異あるだけで形は一様である。將來は職員も皆一定の服裝にしたいと思つてゐる。それは學園が一つの信賴する處であり、職員も兒童も土地の人も皆自分の學園としての誇りを感じる時必ず何等か特に異つた標識を欲するに至るもので、この點は非常に重大なこゝである。

6、學園内の行事は全部一貫せる方針のこゝに實施され、協力一致して團體精神(鐵砲洲精神)を體得させる。運動會、學藝會、映畫會、節句會等には夫々幼稚園も必ず参加する。又幼稚園だけの行事には低學年を招待して共に楽しむ、儀式に就ては第一學期だけは別々に行ふも第二學期からは全部同一に行ふ。これは幼兒に對して多少無理な様にも思はれるが然し式の方法を考慮すれば一向差支がない。これによつて幼時より國民精神を養ふこゝが出来るので斷行してゐるが成績甚だ良い。

7、學園外の施設。

學園外の各種の施設は統制あるものでなければならぬ。即ち保護者會後援會は人格高く熱心な人を選んで會長とし學園長と提携して單に兒童教育許りでなく土地の一切に迄關與するの様に企てゝゐる。即ち保護者會長は一切の會長を兼務して其事業を圓滿にし發達させる様努めてゐる。この事は至難の様だが學園長さへ堅い信念のこゝに經營すれば出來得る。

1、保護者會 常に學園と親密にし學園の教育方針を理解し協力する。従つて學園に來て授業の參觀するは勿論學園の行事には必ず参加して共々に教育の進展を圖る。

ロ、母の會 毎月一回例會を開き子女の教育、母の修養、家庭改善、土地の文化發展に努力する。子女の教育や社會問

題は母の力によるこゝが一番よい。毎月百餘名會合して修養ミ社會事業ミに實際運動を爲し來つた當校では其功績大なるに驚く。

ハ、同窓會 保護者、母の會の援助によつて毎年二回總會を開くが、特に幹部級のもの三十名は毎月集會して青年の修養につこむ。男子部は夜七時から九時迄、女子部は午後四時から六時迄ミして互に定日を異にしてゐる。

ニ、男女青年團 學校青年團は同窓會幹部會を其中心ミなし同一なるものミ見做してゐる。

ホ、敬老會 既に老年に達したる七十歳以上の人に對しては學園及保護者等が慰安的行事を營み特に招待して半日の樂しみを得させ、若き人々をして謝恩の念を實地に現はせる様努める。

ヘ、學區域内の青年團、在郷軍人會、防護團、衛生會、町會等一切の社會事業にも學園は力を致して共々に土地の爲めを圖り、校舎園舎は成るべく自由地使用させる様取計ひ、以て教育の充實を期してゐる。

教育の事業は遠大で未だ何一つ充分で無いが著々完成すべく職員一同盡力してゐる爲め、其理想大きく各自の責任亦大なる處から自然ミ小學校幼稚園なミ、區別なさせぬ。この點當校では些か問題にしてゐない。

フレイベル館主催

手技に關する座談會

十一月十七日夜於東京丸ノ内會館

(應募手技品審査會に引續き)

出席者氏名(A・B・C順)

前東京女高師附屬保姆 大和郷幼稚園主任	坂内みづ先生
姫百合幼稚園長	後藤牧星先生
前東京女高師附屬保姆 聖心保姆專修學校教授	神原きく先生
東洋幼稚園牛込分園長	久門嘉祐先生
東京女子高師教授 同附屬幼稚園主事	倉橋惣三先生
日本橋濱町幼稚園主任	水野世志先生
東京女子師範學校 附屬小學校幼稚園主事	野間忠雄先生
東京女高師附屬幼稚園 主任	及川ふみ先生
東洋大學教授	關寛之先生
前東京女子師範附屬 幼稚園主任	ト部たみ先生
目白幼稚園園長	和田實先生

倉橋 フレイベル館は商賈に辣腕だと思つたら、審査會を

開いてあさは座談會といふ、なか／＼隅には置けない、

また、それを簡記して「幼兒の教育」に載せるために、私の

檢閲を經るこいふが、内務省の檢閲とは違ひますから、

その點は御安心であります。そこで、社長の御命令です

が、先刻のビールの御馳走で、いさゝかほろ酔加減です

が、この勢で大にお話をお願ひしたいと思ひます。ふだ

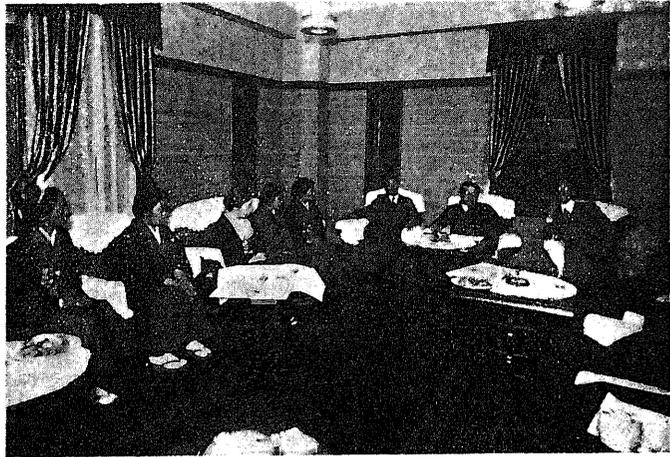
んは顔をつき合せるミ喧嘩はしませんが、各々の意見を深

くしまつて置いて、こいふのではなく、従つて今日のは、

司會者は楽しく會つて、いろ／＼技巧を用ひるこいふ心

配はない。司會者は適當な所でおひきあげをお願ひする

こいふ位の役目で、るねむりは致しません、平生、幼



思ひますから……。

野間　しかし喧嘩をしてはいけませんな。(笑聲)

倉橋　今日の審査の結果は皆様のお考への總意になつて出てゐるが、多數決意見の大切であると共に、亦少數意見も必要でありまして、賞にはなつたが、賞にならぬものに就ても必要な要素が澤山あると思ふ。これだけの事を申しあげて、皆様の御意見を伺ひたいと思ひます。

さて、關さん如何ですか。

關　實は質問して御迷惑と思はれますが、あれは幼稚園の先生が作られたものですか。

社長　保姆さん方が作られたものと思ひます。それが多數のやうであります。

關　私は保姆さん方の研究になつた眼新しいものが大にあらうと思つてゐたが、多少失望しました。フレーベル館の研究會員の作つたものには流石によいものがあつたが、これは比較研究の結果、こゝに到達したものと思ふ。

で、保姆先生方が、ふだんモット多く觀て研究をして貰ひ、今度の企ての如きには大に奮發して應募して貰ひた

兒に對するご同様に、御銘々の方の自發活動に願ひするごいふごにしたいと思ひます。

社長　今日の審査に就いてはそれらの御意見もあらうご

いと思ふのです。

坂内 手技としては、實際子供にさせることを主眼としてゐますが、實際に子供に保姆がやつてみせ、子供もこれにならつてやるこいふことが出来ない結果、應募しない保姆さん方もあつたと思像します。また、實際に忙しい

ものですから、研究時間が無かつたと思ひます。自分の想ふ所、自分の觀た所では、多くの方々にして頂いたよい點を見せて頂いて、それを實施したいこいふ、ママ慾の深い考へ、(笑聲)それが、現在の保姆さんにつては眞實ではないかと思ひます。またそれが實際に有效でありますから、審査がこのやうに工合ひよく運ばれ、新手法創案に心を須ひられた方々の眼ざす所が十分に現はし得られ、それが幼稚園に實施されましたならば誠に結構な事と思ひます。

倉橋 丁度審査學校の生徒のやうですね、(笑聲)。

坂内 恐れ入りますが、それが私の感想で御座います。

水野 私は小學校のこゝは多少存じてゐますが、幼稚園のこゝは昨今のこゝで、よくわかりませんが、小學校低學

年に入つてくる子供から觀ますと、幼稚園では保姆が手傳ひ過ぎはしないかと思ひます。

紙でもきびがらでも、自分で切らずに先生がする、そして子供は手をつかねてゐるこいふ、そのやうなもの(手技は應募しても入選するわけはないと思ひます)。

倉橋 今のお話は幼稚園での取扱上大切な點にふれてゐると思ひますが、和田さん如何ですか。

和田 いまのお話は御尤で、子供に拵へてみせてやる——誘導するこいふことは大切であると思ふので、或る材料を調べて拵へて見せてやるこいふこと、子供の手には不適當なこゝ想はれるが、幼稚園には必要に思ふ。幼児には必要だが児童には不必要と思へる。

水野 そのお考へは御尤で、幼稚園の手技には最もよい點と思ひます。

坂内 主として保姆が作るこいふ事になりますと、子供は單にそれを貰ふだけで、幼稚園の手技こいふものゝ眞精神から遠ざかる様に思はれますが、如何で御座いませうか。

和田 保姆が拵へて園児に與へるこいふ事も、慥に園の行

事として必要の事でありませんが、子供の知らぬ間に出來てゐるこいふこはいけない。子供の見てゐる前で誘導的に作らなければいけないと思ふのです。

坂内 子供はすぐに眞似をしてしまつて、そこに創意こいふものは認められません。

和田 眞似は大に結構なここゝ思ふ、眞似をさせるここは導くここですから。眞似はしても到底同じやうなものは出來得ない、そこがよい所と思ふ。

關 これは地方のものですが、同じものを作らせて——バナナですが、そのバナナの同じものを作らせて、ひみつ籠に入れて列べ、子供たちに見分けさせたのですね。同じものだが子供はちやん、自分のものを見分けてゐる。そしてこれを次の手技に見出してゐる、即ち悪い所を見較べてゐる、面白い方法だと思ひます。

倉橋 水野さんの先刻のお話は幼稚園での仕事の全部こいふ譯ではないですから、或る場合にはお話のやうにし、又或る時には自發的に活動させるこいふやり方も必要で

はないかと思ふですね。

坂内 然うで御座いますね。

水野 わたくし思ひますに、今日、佳作に入つてゐたものが——あんなものが子供のものではないかと思ひます。

倉橋 先刻社長の言はれた、誰れか分らぬが保姆さんの製作と思ふ、保姆が作つたか子供が作つたか分らぬ程度が、また面白いと思ひますが、御經驗の多い久門さん後藤さん如何ですか。

後藤 私の申したいのは、たゞ物を作る工作法こいふものは、成人と子供でいろく違ふ、鋏を使つて紙を剪るにしても中央から左右が正反對で同一のものであれば、二つに折つて鋏を使ふ方が易い、そこに自然、幼兒の工作法があつて、これ等の點は先生の指導を俟つ要があると思ひます。

久門 先生が自然に工作法を會得し、その上に趣味を咀嚼し、その間に巧に具體的に作り上るここはなかくの困難であります。幼兒の工作法こいふものを稽へ、指導しつゝ、先生が手傳つていくここが必要だと思ひます。

先生に教えられたやうに子供は切角作つてはみたが、その作つたものが立たぬ、出来ぬといふ失望があります。

ですから、先生が、一番ちいさい方にも出来易く、然もよく出来るといふものを先生が平生研究して欲しいと思は考へました。

私の考へ、見方では割合に子供がその工作法を咀嚼してやつて來てゐるのではないかと思ふこころがあります。

倉橋 要するに手技には考案と製作、即ち創意と工作（テクニック）との二方面あると思ひますが、唯今は第二のtechnicに就いての御意見を拜聴いたしました事と存じますが、幼稚園では時にテクニックに就いて夫れを周到に指導してゆくこころが怠られたり、その點の指導者としての先生の修練が足りないといふ、それもあるかもしれませんね。

たゞいまの久門さんのお話の通り、考案に屬する部分とtechnicに屬する部分とがあるから、technicの方は手傳つてやり教へてやる必要があるといふわけですね。水野さんの御意見も左様に伺ひましたが、久門さんは種々面

白い考案を發表されますが随分考へられるでせう。時に相當クモン（苦悶）もせられるでせう。（哄笑）

後藤 子供はやはり模倣から創作に進むものですから、作つてみせるといふこころは悪くないと思ふ。今日の審査の結果は失望しましたが、それは創作が少く模倣が多いといふ事です。殊に手技の素材として、もつと變つた新しいものが出て來はせぬか期待してゐたのですが。例へばキビガラミか布類などですね。然しフレール館研究部員の創作品には非常に感心させられました。

次に選外のものにも相當よいものがあると思ひますので、出来るこころならば落選のものも一般に公開したいと思ふのです。

クリスマスに用ふる手技として、一等に當選したストッキングは布製のもので、一般的なものだが、布、糸を用ひた所に新味があります。一般の傾向としては平面的のものより立體的のもの、そして大きいものを好むのであります。私はむしろ二等當選のお家を煙突から訪問するサンタクロースの方がよかつたと思ふ。

三等の犬に乗つたサンタクロースは以前に屢々用ひられたやり方で、失禮ながら御臨席の及川先生のよほぎ以前の御創案かと思えますが、全然模倣的なものであると思ひます。

一般の手技のものでは、二等當選の兎の餅搗きは從來あるものよりヒントを得たもので、子供は模倣的でないかにも上手に芝居をします。

第三等の乳母車は三等にするには餘りに惜しいと思ふ。以上あらましの私の感想ですが、可なり新手法としての材料に就いて、保母さん方がモウ少しお考へあつて然るべしと思ひます。私の意見はこれだけ。

倉橋 いまお話を承つたらうちに、「模倣から創作へ」と仰言つたが、これはいろ／＼の考へ方がありますが、そこらの教育的見解に就いて、野間先生の御意見は如何ですか。

野間 和田先生と水野先生のお話しの作つてみせることは即ち誘導教育であるといふこと、それから後藤先生の模倣から創造へといふこと、その内容の價値に就いて考



へれば、たゞ「模倣」の意味如何によると思ふのです。その内面的に活動させる意味の模倣であるならば、まことに教育的價値ある結構なことと思ひます。たゞ私今日

の感じは、いま後藤先生の仰言つた如く、創作的なものが無い少いといふ、それは何故かご申しますと、保姆さんが偉い人の書いたものに就いて、上のもの(高級?)ばかりみてゐるが、子供のやり方の總てを觀て、それから一步出たもの、その道筋をつかまぬためではないかと思ふ。そここの暗示を與へられたものを捉へぬためのものではないかと思ひます。今日、こゝに陳列され審査された澤山の種類を觀てゐるに、成程、子供の作られたものを見てゐる方が——子供が作つたやうなものが佳いと思ふが、其處をモウ一步つき出たものがあつて欲しいと思ふ。

形はやがて構成の要素となるもの、そのやうなものが無かつたと思ふ。なにか數字的な要素を加味した手技があつてもよくはないかと思ふのです。正三角形があつまつて正六角形になるといふやうな所を應用してですね。それから、應募者ご當局にお願ひするのですが、作品にそれ／＼説明を附されたい、何々にヒントを得て作つたか、何の目的のために工夫したか、審査にあたつて、

それを知りたいと思ひます。なかには一二説明つきのももありましたが、さうした方が一層よいと思ひます。

社長 説明は澤山ついてゐましたが、今日はそれが番號の下につけてありましたが、それは何々にヒントを得たか何々の目的に就いてか云ふのではなく、みな製作の説明でありました。

倉橋 たゞいま野間さんの御説明を三つに分けて承つたが、

一つは創作を模倣といふ事。

二に、形體の整つたもの、

三は、製作の説明よりは動機、目的の解説を附せられた

いといふ希望。

私、實は後藤さんのあみに野間さんを引張り出して大に意見をたゞかはせて頂きたい——喧嘩をして頂くつもり(爆笑)でしたが、喧嘩は大體概念で起るが、野間さんうまくそこを逃げて仕舞はれたが、私はまだそこを考へたいと思ふのです(笑聲)。

關 一體子供は創作家を謂はれてゐるが、私はさうは思は

ぬ、子供は徹頭徹尾模倣家で、汽車を畫けば、一臺を二臺にするとか、審査指導に就いて、子供の創作は子供の流儀で、それ以外にないと思ふ。子供はいかなる程度迄創作的であるか疑問である。私は大人と子供と同程度の模倣家と思ふのです。その點に於いて私たちは露店の商人に遠く及ばぬと思ふのです。

久門 創造云へば心理學上の模倣でせうが、元來、大人でも創作とは何が創作か、創作はないと思ふ。創作とは各自の個性が出たものと思ふ。幼児の畫く同じ汽車でも、その個性の出たものを創作と言つてよいと思ふ、その描き方操作に就いても個性が出てゐるものを、そのものを創作と言ひたい。お手本に随つても、それに随つては描けない、それを真似てゐても自分の持前のものが出る、斯様に最初から模倣に模倣が重なり重なつて、其所にその幼児自身でなければ出来ない一つの型が期せずして出来てしまふ、それを創作云つてよいと思ふ。

關 私の思ふ所と同じであります。

野間 然らば久門先生の仰せられる模倣とはさういふ意味

ですか。

久門 それは、要するに、子供に模倣はない。假へお手本を見て作つたものでも、實は子供の立派な創作品であると言へる確信します。

野間 するに、久門先生のお話は、子供は何所までも模倣的であると同時に、これはまた創作的である云へるの意味ですね、即ち一切は模倣であると同時に創作であるを仰せらるゝのですね。

久門 さうです、模倣ではあるが、それは同時に創作である云へるさういふ意味です。

野間 つまり、それを模倣か觀るか創作か見るか、それは人々の見解によつて異なる所ではないでせうか。例へば、先生が一本の線を引く、子供がその通り、それを真似て一本の線を引く。先生に真似たさういふ點に於てそれは模倣であります。然し先生の引いた線と子供のまねて引いた線とは、嚴密に言へば決して同一ではない。やはり其の子の個性が表現せられたる一線であるに相違ない。此の意味に於てそれは子供の創作である。

後藤 模倣に創作といふことで難しい事になりましたが、私は、模倣は先生が作つてみせる、それを真似る、それが模倣だと思ふ。ところが、幼児自身が氣まゝに、こらはれるこゝになしに作る、それが創作ではないかと思ふ。二者の區別はそんな所に求むる他はないと思ひます

倉橋 手本に對して忠實なるものと不忠實なるものがあり、不忠實なるものうちに二通りありまして、一つは意氣地なく、出来ない爲めに自づこ不忠實なるもの、他の一つは力量があり過ぎて自發活動の結果手本には不忠實の如くなるもの、そして後者の方は大いに結構な事ではないかと思ひます。

ト部 大分難しい事になり、私何か教育學の口頭試問でも受けてゐる様な心持が致しますが(哄笑)。さて創作は模倣の問題で御座いますが、子供に純然たる創作なしの御見解は如何か存じます。假へ一本の線、一輪の輪でも、子供の生きた觀念の表現である限り、立派な創作では御座いますまいか。再現より創造の喜びへ、この喜

びこそ子供の創作の原動力と申されませう。それは自由畫の問題と同様に考へるので御座いますが、手技にはテクニクの指導といふ問題が入つて來ますので複雑になります。手技の結果主義より解放せよ、子供自身の心理的躍動の過程こそ眞の手技なれといふ聲が起り、之が反動的に強く主張せられまして、一切の手技が過程にのみ重點を措かるゝ様になつたのでありますが、此の傾向も亦行き過ぎては、如何か私は考へるので御座います。矢張よき模倣を與へて、子供の發表力を刺戟する環境を作るといふ事が、矢張非常に必要な事で、結果主義といふ事も、茲に大いなる一つの意義があると思ひます。子供は一應製作の結果に失望し、困難に突當らせられて更に引揚げられる、ヘーゲルの所謂「止揚」(Aufheben)です、その境域が尊いのでは御座いますまいか。幼稚園で模倣によつて素材、又は素地が與へられ、時間の経過の間に體て自己に選つて自由製作に進み入る、創造は模倣は要するに過程上の問題で、結局同一カテゴリーに入るこのこゝでは御座いますまいか。唯、主として指導する

場合、指導しつゝ子供の考案を主とする場合、こをはつきり考へて、その配置に留意せねばならぬかこ考へます。先づ大なる生活題目を捉へ、その生活の爲めに大きなものを繼續製作——共同製作——する、その過程に於て創作の餘地は多分にあるものこ考へます。目的地を示しその過程を誘導せよ、子供は手技をさせらるゝいふ感じより、愉快な氣持で作るこいふ、遊び的、自發活動を中心として手技する、即ちテクニクよりも道程に重きをおく事、題材を選ぶにも此の心持で、例へばクリスマス、又はお正月の行事の爲めに共同製作する等は洵に結構な事と思ふのです。久門先生の如く、餘りにテクニクに重きを措かるゝこ、形式的、訓練的になり易いこ存じます。正しき工作方法を教ふる事こ勿論必要ではありませんが、製作の興味を中心とするこ、之こそ手技の眞生命ではないかこ私は思ひます。生活意識の中に分擔的に織り込む事、材料、題目の採り方、指導方法、の三者を此の意識に合致せしむる事が絶対に必要であるこ信じます。結果主義も元より一應は結構ですが、たゞ手技のみ取り出

して製作能力を強調すべきではないこ私は思ひます。

次に野間先生の仰せられました形態觀念之も手技の中には是非指導すべき一題目こ考へます。之は恩物なきに據るのが本筋ではありますが、同時にまた手技の中に躍動して活かす事が必要です。數學的形態觀念を正確にする事も手技の職能の一つで御座いませう。長々こ取り止めてない事を申し上げまして。

倉橋 心理學より實際へ。随分子供の實際的指導の要點を承り得る所が尠くない様に思ひます。模倣こ創作の問題は、心理學的には模倣の意識を中心とするや、創作の意識を中心とするや、要するに意識の問題ではないでせうか。模倣こ創作の心理學的問題は之で止め、次に實際的指導の問題に移ります。模倣こ言ひ創作こいふ、要するに手本を與へて作らせるか、又は自由畫的に子供自身に勝手に作らせるかこいふこのだが、兩方を織り混ぜて塩梅する事は勿論必要ですが、少くも實際の *Start* を何所に置くかは問題になります。お茶の水——女高師では研究的にやるのですが、かの種の幼稚園では一方づいて

固定してはいけないと思ふ。古い所では技(テクニク)を教へる、型を教へる、課題を課してゆく傾向が可成り多かつたさいふころであります。私共の方ではそれを研究的にする、具體的には手本に引き出されて作るが、兎に角作らうとする子供の意識から出發して、それを如何に指導するか、それを近來研究してゐますが、そこに一層骨の折れる處があります。超然たる立場から一つ神原さんにお願ひしませう。

あなたは現在直接お携りになつてゐられるから、その點如何ですか。

神原 私は一向手技に就いて經驗に乏しいので、及川先生のお與へになるものを、そのまゝ子供に課して共に作るさいふ程度でしたから、私は全體の遊びの背景又は環境の中に於て如何なる手技を作るかゞ問題で、手技のみ取り出して應募するのは、教育學上容易でないを考へまして、應募も控へて居りました次第で御座いまして。つまり環境なき手技は無意義を考へまして。

倉橋 それ位心配して應募せられなかつたのでしたら、實

に結構。見上げたものも存じます(哄笑)。先生は中々巧い言ひ方をなさいましたね(笑聲)。一つだけ取り出した手技は工藝學校の考查品に過ぎず、環境なき手技は意味をなさぬもの仰せですね。一般應募者はそこ迄は考へず、研究のあふるゝまゝに應募されたので、賞金等はもさより宛てにしての事では御座いますまい。この意味に深く一般應募者に敬意を表し、またその機會を作られたフールベル館に厚く御禮を申し上げます。

落選のものにも仲々よいものがあるこの事ですが、及川さん此の點如何ですか。

及川 私、一通りすつかり拜見しましたが、落選中に私の非常に好きなものが一つ御座います。それはあの軍艦です。(實物、持ち出ださる)。簡單で、材料も大したものを使はず、子供自身働く餘地が多く、出来上つたものが、玩具に使へます。此の立たせる所なき、大した技巧を使はずして要領を得てゐます。色彩なきも簡單でよいのです色々な色をつかつて百花爛漫の奇麗なものが多う御座います。色が多いのそれはなかく調和が難しい。

色多形、共に簡單にして物の眞實の現はるゝもののがよいのでは御座いますまいか。元度の出品を見て色彩の多い事、平面のものが多し事に氣つきましてまだ研究の餘地があると思ひました。子供に實際にさせる事、之が重要

で、尤も全部を子供に作らせるさいふ必要のないさきもありません。箱は作つてやつて、それに尻、頭、脚丈を子供に付けさせて動物をつくる事なきもよくやりますがそれでも立派な子供の特技であります。これなきは經濟的で子供の製作活動も充分出來、共に一舉兩得で御座いませう。理論は色々御座いませうが、實際的の立場からは、子供と共に出来るものでないミ價値はない様です。

關 自分はこの三年間、玩具の實際的研究の方に入つてゐるが、及川先生の御説は實に頭にピンミ來ました。今日こゝへ寄せて頂いた價値は此のお話だけでも充分です。つまり、簡單で複雑な動作、觀念を含蓄するもの、簡にして直觀的のものでなくてはならぬミ信じます。

和田 手技には三つのカテゴリーがある、一は自由製作、二は工作方法指導(模倣製作)、三は單に子供に拵へて與

へる。一、二の必要は無論ですが、三も亦園の經營上は必要なのです。尤も三の場合は、子供の見てゐる前で作るさいふ事は大切です。

倉橋 和田さんの三の意味の應募品も相當にありますね、審査員もその點に御留意の跡が窺へます。

ト部 今回の「新手法彙集」の新的意味ですが、單に目新しい方法の新款、幼稚園の最近の傾向即ち Current 的に新なのか、いづれを意味するか伺ひます。

倉橋 それは兩方を含んでゐるミ思ふ。「幼児の教育」に載つてゐる手技はいつも生活行事のプロジェクトに合致してゐるもので、あゝいふのも新の一つの意味でせうが、製作方法なり、材料なりの新しいのも新の他の一つのものでせう。次に及川先生の軍艦がお好きさいふのは、遊べる事、子供が我が世界のものミ直ちに直觀する事、この二つの點も御考慮の事ミ思ひ、補足致します。

(こゝで、フレール館社員小高氏、審査の結果の報告あり)。

(以下五七頁へ)

おもちゃや

光榮の行啓當日の陳列に幼稚園にも一室を配せられました。七メートル一四の横(四間ばかり)七メートル三〇の縦(四間餘ばかり)のやゝ長方形の南向のあかるいお部屋でありました。このお部屋を廣すぎもせず、狭すぎもせぬ様に陳列致したいものご主事倉橋先生はじめ私共一同はいろいろご苦心致しました。

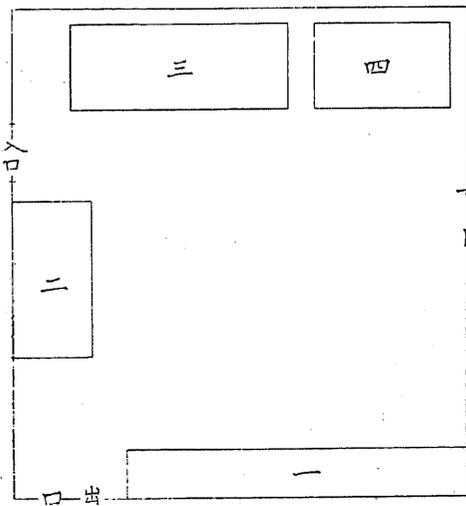
様々ご相談の結果別圖の様な陳列室のプランが大體出来上りました。

- 一、幼稚園の歴史
- 二、木ミ紙の製作の工程
- 三、人形のお家
- 四、おもちゃ

そうして幼稚園の歴史はこの數年研究をつゞけられてゐる新庄さんに、木や紙の製作工程は、この頃盛に幼児ミ一

緒につくつておられる年長組の村上さんご小島そのさんに、同じく年長組の人形のお家は設計から台所のお野菜の端に至るまでの一切を菊池さんに、年少組のおもちゃ

及川 ふみ



んは小島光子さんと川さんに、それぞれ分擔も決りました。

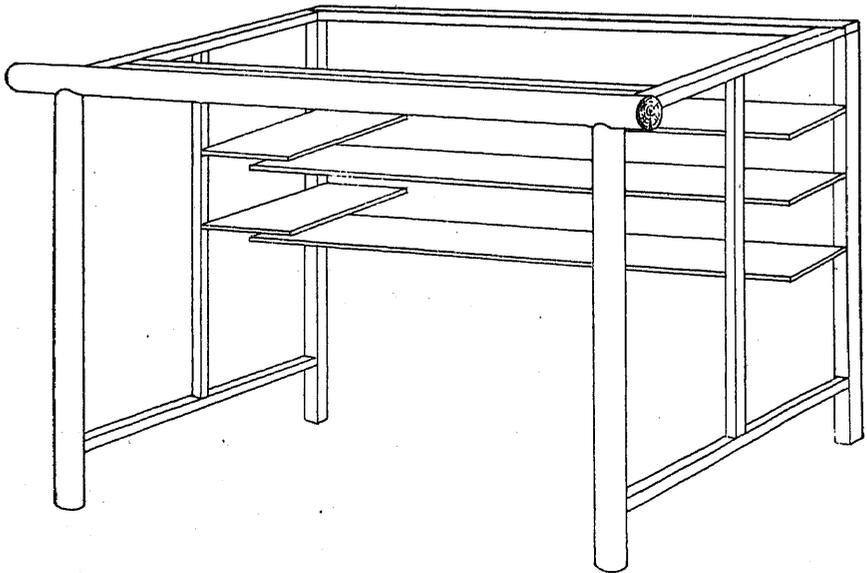
おもちゃ遊びは、こゝの幼稚園でも度々してゐる遊びではあり、いつもその遊びが幼児たちに大變な興味でむかへられますので私共二人は仕事にかゝる最初からよろこび勇んでおりました。さていざごんな様にお店を構へるかといふ事になりますと、度々今までした事もあるだけに、いつもごお店の様子もかへて造つて見たいと苦心致しました。毎日の幼稚園のゆきかへりの道すがら、おもちゃやさんの様子をのぞきながら、格好のよさそうな屋台店の組立に注意をはらひながら、小島さんと二人で頭をひねる事数日、やつと半ば實物の様な、半ば空の様な半信半疑のプランが頭の中にゑがき出されました。

そうして紙の上に設計されたものが

間口 二メートル二センチ二ミリ(七尺)
奥行 一メートル二センチ二ミリ(四尺)
高さ 一メートル五センチ五ミリ(五尺)

用材は前の庇と兩方の柱は直徑八センチ位の檜の丸太、

あとは五センチ位の角形といふこゝで別圖の様な設計プラ



ンがいよく出来上りました。

丸太ミ丸をつけ合せる前の二ヶ所の組立は仕事上手な女大工さん達の實習科生たちにもなか／＼の難仕事でありました。何本かの釘があらちむき、こちらむきにうちこまれてやつみの事でゆらがなくなりました。

後に三段の棚、左横に二段の棚をつけてお店の骨ぐみだけは出来上りました。

看板は寫真(先月號)で御覽の通り、晝用紙に墨痕あざやかに「オモチャ」ミ大書してもらひ、細い木の枠の額縁に白の銀砂子の伊豫紙で表装いたしました。

前の庇の下ミ、左右の軒ミに、赤の新モス三分の一巾で、のれんを下げ、黄色ミ赤の手製のほうづき提燈を六つさげてお店前の飾りは出来ました。

店の土間の飾臺は丁度幼児用の机の新らしく出来たものが御座いましたのでそれをそのまま、まにあはせました。そしてこの臺にも赤の新モスをしき、數枚の後横の棚にも同じく赤の新モスをしきました。

店臺の上のせるおもちやの箱は、一尺前後の浅い木箱

をきくにさがし出して、内側は黄色、淺黄、みぎりの無地張り、外側は美しい千代紙で張りつぶして五個つくりました。

これでやつみ店の雑作だけが出来たわけでありませう。片方おもちやの仕入部では小さい職工を相手に

花子さんの着がへ人形

おさかなの箱入

水兵帽

短劍

花ゴマ

豆自働車

花傘

かばん

五色の首がざり

フラ／＼人形

ピエロ人形

象

虎

兎

龜

かたつむり車

てんたう蟲車

坊主人形

國旗

かざ車

プロペラ風車

さんぐり、珠數玉、ぎんなん

等々のおもちやを毎日々々せさせ、せさせに稼ぎつゞけて

一ヶ月半ばかりもかかりました。

さて賣出し當日の混雜を懸念して商品のおもちやにはそ

れぐく一品つゝ正札の一ツ一セン、一ツ三セン、一ツ十セ

ン、の札がおぼつかない字でかきあげられました。

賣上げのお金を入れる箱も出來、釣錢入れの紙のお皿も

用意されました。

開店早く千客萬來の繁昌にも、品物の手うすになりませ

ぬ様、澤山の豫備品も箱に入れて店の奥に用意致しました。

こうして六十の幼児の可愛らしい手でつくり上げられた
數々のおもちや、十人餘の大きな子供の手によつて出來上
つたおもちやの家はかゞやく行啓の前々日に本校の陳列
室にはこびこまれたのであります。

(五三頁より)

倉橋 今席は期待外の随分色々の御馳走を頂きました。ま
たお一人残らず御發言下さいまして、非常に成功した座
談會を存じます。主催者に代り厚く御禮申し上げます。此
の審査會、座談會には、傍聽希望者は非常に多い事を存
じます。これを「幼児の教育」に掲載致しましたら、嚙か
し雑誌が賣れる事でせう。(笑聲)
兎まれ皆様に厚く御禮申し上げます。(了)

お母様とのお話あひ

東京市京橋區
昭和幼稚園

白根美智子

ひざり幼稚園に限らず、學校と家庭との連絡といふ事は近年八釜しく云はれて居りますが、實際は小學校中等學校に進むに連れて難かしく、仲々理想通りにはゆかない様でございます。せめて幼稚園だけでももつ家庭に近寄つて子供を中心に歩調を合せて進んでゆきたいと思ひまして、

春秋の大園外保育を幼稚園と家庭との親睦會の様にして見たり、母の會を作つて講演や講習をしてお母様方に度々来ていたゞく様にして見たり、又保育の實際を毎週家庭に通知したり、一生懸命に努力致しましても、一年或は二年の在園中に一度もお顔をお出しにならないお母様すらある現狀では本當に心細いございます。

先頃もこんな事がありまして餘計こうした問題について考へさせられてゐます。

Sは組中で一番身體も大きく、知能の發育も進んでゐて見るからに頼母しさうな子供です。それでゐて意張るでもなく、意地悪をするでもなく、生意氣でもなく、いつの間にか組中の人氣を一人で集めて居ります。お母様がお醫者様で毎朝出勤の時連れていらつしやいます。或朝

「いつもは朝早くから幼稚園へ行くく、騒ぎますのに、昨日から何だか元氣がなく、今朝も火鉢の前で、寒いから休まうかなあミグズ／＼してゐますので熱を計つて見ましたがお母様もありませんので連れて参りました」。

ミ仰言いますので入園以來一日も休んだ事がないのにさうした事が思ひましたが、

「今不順で風邪が多うございますから注意致しませう。お悪い様でしたらお電話致しますから」。

「云つてお別れしました。お母様がお歸りになるまで直ぐSが来て、

「先生、昨日僕菊の花のお金探したけき何處にもなかつたよ。」

「申しました。菊の花のお金申しますのは恰度その頃私の組で動物園を作りましたので、動物園ごつこに使つてゐたものなのです。始め入場料五錢、繪葉書一枚五錢にしまして、ボール紙を圓く打抜いたのを一つ五錢に使つて居りましたが、暫らくたつと同じ事に飽きて來た様子でしたので、今度は菊の花型の打抜きを作つて十錢ししお釣りのやり取りを始めました。ところが一日の中にその菊の花がすっかりなくなりましたので一番澤山持つてゐたSに尋ねましたところ、ポケットを散々調べた上

「家にあるかも知れないから探してみろ。」
「申ししたのです。」

その返事なのです。そしていつも一秒のすき間もない程キビしくした子が妙にグズグズしてゐるのです。私はなかつた事を心配してゐるのかと思ひ、可愛さうになりまして、

「まあ、それを心配してたの？、なければいゝのよ、又作りませう。さあ早く行つて遊んでいらつしやい。」

「申します喜んで飛び出してゆきました。翌朝お母様に「昨日はあれからお元氣でしたか？」

「尋ねます。」

「お蔭様で何でもなかつた見え、大層元氣でございますた。」

「その事でした。」

その時は別に何も思ひませんでしたがおふSが朝出遊つたのはその爲かも知れないと氣がつかまりましたのでお晝休みにいらしたお母様にその事をお話致しますと、

「何も申しませんでしたけれど、丸の打抜いたのなら澤山打つて居ります。菊のはいかゞか存じませんけれど。」

「お仰言るのでございます。丸のも菊のも家へ持歸る事は極めてある事を申しますと、お母様のお眼には早涙が光つて

「歸りましたらよくきいて見ませう。」

「お歸りになりました。翌朝早くいらして、

「先生、これだけでございました。菊のものはいつて居りま

す。机の上の箱の中にきれいにしまつてありましたから何も云はずに、Sちゃん先生が持つていらつしやいミ仰言つたから皆、幼稚園へ持つて行きませうミ申して持つて参りました。」

「二百位お出しになりました。そして

「私からは何も申してございませんから、よろしい様にお導き下さいませ。」

「云つてお歸りになりました。私はお書頭迄色々考へました。頭がずつミ進んでゐる子供だけに慎重に扱はなければならぬと思ひ、みんながお辨當の仕度でゴタ／＼してゐる時にそつミ呼んで尋ねました。」

「これさうしたの？、さうしてこんなに澤山持つてゐたの？」

「……………」

「お家へ持つて歸つちやいけないこと、知らなかつたの？」

「うん」

「ぢや知つてたのね。知つてゝさうして持つてつたの？」

「ほしかつたの？」

「うん」

「これで何して遊んだの？」

「遠くへミばせつこして遊んだの」

「昨日先生にお家になかつたよつて云つたの何故？」

「だつてあの時めつからなかつたんだもの」

「そう。ぢや、その時、なかつたよつて云はないで、探しても見付からなかつたのつて云へばよかつたのね。」

「うん」

「今度からほんミの通り言ひませうね」

「うん」

「Sちゃんがさがしても見付からなかつたのに、さこから出て來たの？」

「僕がしまひ忘れてゐたらお母様がさこからか出して來て、幼稚園へ持つて行きませうつて言つたんだから僕知らない。」

「そう。ぢやお母様に伺ひませうね。Sちゃん、一番始めにさうして「先生、僕おうちで持つて遊びたいからこれ

頂戴「つて云はなかつたの？、これからそうしませうね」。

「うん」

「ぢや一度返して下さいのだから、Sちゃんがほしければ今度は先生があげませう、要る？」。

「うん」

「ぢやいるだけあげませう、お取りなさい」

一生懸命より取つてゐたSが突然ワーツミ泣き出ししました。

「何故泣くの？ おだまりなさい」

「一言云つたらすぐ泣き止みました。ほんの一瞬間でした。

素早く涙を拭くまほしうだけ持つて、

「これでいゝ。ありがたう」

「元気よく出てゆきました。その日お辨當をわざとSの隣のテーブルでいたゞきながら様子を見てゐましたが先生先生ミ呼びかけて、いつもミ少しもかはりませんでした。

お晝休みに心配して様子を見到いらしたお母様にくわしくお話して

「少しも御心配なさる事はないでせう。たゞ今日お歸りに

なりましたら、今日の様子をたづねて見て下さい」。

「お頼みしました。翌朝

「先生、さうも色々有難うございしました。昨日先生に伺つて参りました通りを本人も申しましたので私からもよく申聞かせました。自分でも氣になつてゐた事が片付いてサバくしたらしく、昨夜お風呂にはいりましたら、お母様僕がこの小學校に行くの？ミ申しますからそうね慶應にでもませうかミ申しますミ、僕いやだ、僕いつまでも幼稚園に居たい。ミしんみり申して居りました。みんなに叱られるかミ思つてゐたので餘程嬉しかったです。ミうございします」。

「言はれてホツミしました。Sは相變らず組の人氣を一身に集め此のうす寒さにも汗びつしよりになつてはねまはつてゐます。」

「この問題はこんなに心配しなくてもいゝ性質のものかも知れません。それをあまり大事をこつて心配し過ぎたのかも知れません。」

でも若しあの朝お母様から、朝出遊つた事をきかなければ

若し私が變だき氣付いた時すぐにそれをお母様に云ふ折がなかつたならば、若し又お母様が歸宅なさつて發見された時、一時の感情にまかせて、むやみに責めたり叱つたりなさつたらさ考へるさ一寸怖ろしい氣がします。この事子供にあり勝な、出來心さすら云へない程軽い氣持でなされた事であるさしても、これを不問に附した爲、うそが通るさいふ事を覺らせたさしたら、その結果は怖ろしいさ思ひます。

私達はもつさくお母様さ親しくならなければいけないさ思ひます。それさ同時に何でもな様な言葉にも氣をつけなければいけないさしみるさ思ひます。

此の時私のさりました態度方法の是非につきまして、御經驗深くいらつしやいます先生方の御批判さ御教示を仰ぎ度いさ存じましてペンを取りました次第でございます。御指導の程お願い申し上げます。

手技の審査會

フレイベル館主催の新作手技の審査が去月十七日、丸の内會館でありました。手技の審査などする資格は勿論自分にはないし、又そのさあしなどいふ事は、大いに主観的のものでもある。審査などいふ事を頭におかないで、先づ自分の後學のために出席させてもらはう、お招き下さつた方へは誠に申わけない次第ながら、と一人ことないひながら出かけました。場内にならべられました出品物は五十點、このうち普通の手技、クリスマス用手技の二種類あつてそれさ區分してならべてありました。

岸邊のおちさんが審査委員長であります。

先づ委員長の命のまゝに、最初各自がすぐれたと認めるものを三點づつ選びとりました。それを別室のテーブルの上に並べて見ました。ところが十人十色のこのみで澤山の優秀品が出ましたそして、あまりにも多い優秀品でありました。そこで委員長から、この中からさらに一點だけ選べ、といふ命令が出ました。前よりは各自で二點づつへつたのですから今度はやゝ優秀品らしくなつてならべられました。委員長、さらにこの中より出品番號の下に、一二三等級をつけて各自が投票するやう發令、これでやつと當選が二品と選外佳作數品とがきまりました。委員等ホットするかしない間に、委員長ニコニコしながら當惑らしく、今の當選者は全部が偶然にも、フレイベル館の社員の出品であります。さらに審査を願ふとの事で一同啞然としながら協議の結果次點者を順次昇級させる事に決定されました。全國の保姆さん奮起せよ(女子のため)と私の心のどこかでさげびました。主催側(主として男子ばかり)では多大の興味をもつて力作につとめた結果であらう、一般応募者には大した熱もなかつたためであらう。なごこの結果から見ての私の一人きりめ判断、何卒皆さん私の判断をあやまらせない様に、必勝の新作手技を次のこの催しに御出品下さいませ。(及川)

忽七版 東京女子高等師範學校 倉橋惣三 先生新著

▲四六版三百餘頁頗る美本
▲口繪十六枚・挿繪多數入
▲保育法の實際・實景紹介
▲定價二圓五十錢送十六錢

幼稚園 保育法と眞諦

○倉橋先生保育眞諦

日本のフレイベル倉橋先生の代表的名著茲に出来。發行後僅に數ヶ月にして既に七版を突破し、我が國保育界の明星として一齊に大歡迎を受け愛讀又熱讀さる。東京女高師附屬幼稚園の園児等は先生をおぢさんと呼んで相敬慕す。此の倉橋先生の保育法の眞諦即コソを悉く本書に披瀝す。

○現代の保育法原論

本書は懇願數年初めて完成された新著にて、現代に於ける最も完備し且系統も保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者著書少く系統も力作は本書のみ。

○保育界耆宿の力作

著者は幼兒教育並に家庭教育の第一人者として曩に長くも此點に御關心深き 兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢各官家よりの御招聘を。我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事文部省社會教育官と兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

本書の特色

- 第一編 幼稚園保育法の一七幼兒生活の教導
 - 一 教育に於る目的と對象
 - 二 幼兒生活と幼稚園生活
 - 三 幼稚園に於る保姆の位置
 - 四 保育案の採りどころ
 - 五 保育案と保育項目
 - 六 保育案立案度及徹底度
 - 七 保育案と自由遊び
 - 八 保姆案と保姆
 - 九 保姆の創造性
 - 十 保姆の生活性
 - 十一 幼稚園の朝
- 第二編 保育案の實際
 - 一 無案保育
 - 二 保育案の意義
 - 三 誘導の保育案
 - 四 自由遊びから仕事へ
 - 五 三個分團組
 - 六 生活態度による分團組
 - 七 流れゆく一日
 - 八 生活の偶發性
 - 九 日々の實際生活の尊重
 - 十 旅へ
 - 十一 三人形の家を中心として
 - 十二 大形出し
 - 十三 四つたし達の自動車
 - 十四 特急列車
- 第三編 保育過程實際
 - 一 幼兒生活の充實指導
 - 二 幼兒生活の自己充實
 - 三 幼兒生活の充實指導
 - 四 幼兒生活の充實指導
 - 五 幼兒生活の充實指導
 - 六 幼兒生活の充實指導
 - 七 幼兒生活の充實指導
 - 八 幼兒生活の充實指導
 - 九 幼兒生活の充實指導
 - 十 幼兒生活の充實指導
 - 十一 幼兒生活の充實指導
 - 十二 幼兒生活の充實指導
 - 十三 幼兒生活の充實指導
 - 十四 幼兒生活の充實指導
 - 十五 幼兒生活の充實指導
 - 十六 幼兒生活の充實指導
 - 十七 幼兒生活の充實指導
 - 十八 幼兒生活の充實指導
 - 十九 幼兒生活の充實指導
 - 二十 幼兒生活の充實指導

東洋圖書株式會社

東京市神田區神保町一丁目 電話 一〇七三番

〔書良の備必須必〕

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よここ先生 共著
 附屬幼稚園主事 保母 洋綴 天金上製
 菊列四八〇頁
 定價三圓八十錢

本日幼稚園史

特色
 一、二十年苦心の結晶漸く完成す
 二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る
 三、日本幼稚園史として比類なし
 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。
 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
 歴代 皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔。

〔内容目次〕

第一編 沿革及施設史
 第一章 幼稚園開設前期
 第二節 明治文化の建設
 第三節 幼稚園開設の機運
 第二章 幼稚園開設
 第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設
 第二節 幼立後の経過
 第三節 開設及開業式—皇

第三章 女子師範學校附屬幼稚園
 第一節 創立當時の規則及學年休業日
 第二節 建物庭園及職員
 第三節 保育科目及保育用具
 第四節 幼稚園參觀記及追憶
 第四章 女子師範附屬幼稚園

第一節 行啓
 第二節 恩物の名稱その他
 第三節 保育養成機關
 第四節 保母練習生の設置
 第五節 並に廢止
 第六節 唱歌遊戯

第一編 行啓
 第二章 功績者
 第一節 中村正直氏
 第二節 關信三氏
 第三節 松野くらら女史
 第四節 豐田英雄女史
 第五節 小西信八氏
 第六節 保育文獻
 第七節 其後の普及發達

幼稚園の名著
 版八 森川正雄著
 版六 森川正雄著
幼稚園の理論及實際
 價三・〇六 森川正雄著
 送・六版 森川正雄著
幼稚園の經營
 價二・〇五 森川正雄著
 送・六版 森川正雄著
幼稚園の教育法
 價一・〇〇 森川正雄著
 送・六版 森川正雄著

東大 東京 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目一丁 振替東京一〇三〇七番
 大阪市南區堂寺町一丁目二番八地 振替大阪三九五六番

兒童心理學文獻抄 二

牛 島 義 友

同胞數と出生順位の影響

一 家庭的環境

人間性を構成して行く主要點は遺傳と環境とである。同じ優秀な素質を持つた者は何時の時代、どの社會に於ても常に同じ様な成果を現はす譯ではなく、或者は輝かしき名聲を史上に印し、他の者は僅かな人々に記憶される丈で終つてしまふ。英雄が時代を作るのか、時代が英雄を生むのかは興味ある問題である。生まれ環境が人間生活に著しい影響を残す事は申す迄もなからう。

人間性を構成して行く環境としては歴史、社會、家族、及び自然的風土が考へられる。一定の歴史を持つた民族生活はそれ／＼個有の性質を醸成して來る。日本人と支那人の

心性の相違等を研究するに民族性心理學が成立する。又熱帯に住む者と寒帯に住む者、高原に住む者と平原に住む者はその性質が著しく相違して來る。之は風土心理學の問題である。併し普通狹義の環境として取扱はれるのは社會並びに家庭である。先づ家庭的環境について考へて見やう。

家庭を構成してゐる色々の要素を考へて見るに兩親、兄弟、親の職業並びに資産等が數へられるが、先づ同胞の數なる家族的關係に就てマラーの研究を紹介する。

A 同胞數

家族の數と子供の性質 (J. B. Maller : Size of family and Personality of offspring. Jour. of Social Psychol.

Vol. II 1931)

多人數の家庭の子供は少人數の家庭の子供と智能、性格

に於て相違するであらうか、又一人子は何か特殊な性格を持つ者であらうか、この點を研究する。一つの社會層に就ての研究から丈で結論するのを避ける爲に先づ都會の中流社會を代表するE校と田舎のW校、及び都市の下層社會を反映するL校の三校生徒八百二名に就て調べる。

先づ一家族内の子供の數を調べて見るに平均してE校二・八五、W校三・〇八、L校四・二六名となり、都會よりも田舎の家族の方が、又それより下層社會の家族の方が子供の數が多くなつて居る。所謂「貧乏人の子澤山」である。次に智能を見る爲にソルンダイクの智能検査をなし、その結果に子供の數との相關係數を出した所、 $r = 0.76$ となつた。即ち、子供の數がふえる程それと反對に智能が低下するといふ關係を示すものであつて、子供が一名乃至三名居る家庭の子供はそれ以上の多人數の家庭の子供よりも智能が優つてゐる。次に性質の方を調べる。先づ協力性に就て性質検査をなして調べた所によるに、四、五人の子供の家庭の者が尤も協力的で、一人子は想像される程非協力的ではなく、十人以上の大兄弟の子供が最も協力的でない。

かかる家族では親の配慮が行き届きかねるので各人が獨立的自主的になるといふ特徴のある代りに非協調的缺點も自ら生じて来る。慈悲心と家族の數との相關係數は $r = 0.51$ である。多人數の家庭の子供程、他人の事を心配する事が少なくなる傾向がある。以上はテストの結果であるが、教師が生徒を奉仕的精神或は協力心に就て評定した結果も同様に多人數の家族程奉仕的精神は薄らいで来る。之に對し不撓不屈の精神をテストした結果は相關係數 $r = 0.79$ と同じく克己心の場合には $r = 0.71$ となり、意志力といふものは多人數の家族に於てよりよく涵養されて居る。正直性は、少人數の家庭の子供の方が正直になつて居る。大家族は、斯る點では面白い結果を與へない。

以上の諸點を概括して云ふに、一人子は智能、道德的知識、文化的背景、正直の點では普通以上であり、協力心、不撓不屈の精神は人並みであるが、克己心は劣り、又教師からは是等の點で悪く見られて居る。兄弟が二人乃至四、五人程の中家族の子供は智能、正直、克己心、教師並びに同輩の評價の點では最も優れてゐる。大家族の子供は智能、

道徳的知識、文化的背景、正直、協力心、親の智能等に於て最も低く只克己心、不撓の精神に於て最も優れて居る。

尙此研究と同じ問題を吾邦の守田保氏(兒童の成績と環境との統計的研究兒童研究所紀要八、九、十卷)が學校席次と兒童の家族の數との關係をみたものでは次の如く家族多數の者の方が席次は上位である。次の表の値は十點を最良一點を最低とする。

家族數	席次指數
一人	五・八三
三人	六・〇六
六人	六・四七
九人	六・八〇
十二人	八・〇〇

B 出生順位

以上は家族の多い少ないの問題であつたが次に長子であるか次子であるか末子であるかといふ出生順位が智能或は性格との關係があるであらうか否かを見る。俗に長男の甚六等といふが果して斯る事實があるのであらうか。

低能者が末子に多いといふ説をブルウソウ及びヴァン・デア・セールが述べてゐる。即ち前者は五百八十三名の低能

者の五十七%は末子であつたといひ、後者は第五子以下に低能が多いといふ云つてゐる。之に對してミッチェル・ダウン・クールマン等は長子に多いといひ、リバース、デートンは中間の者の方に、却つて多いといふ云つてゐる。故に、此點は未だ未解決の問題である。次にエリスが英國の天才、偉人を研究した所による末子よりも長子の方に偉人が遙かに多く出てゐる。この場合長男が家督を繼ぐといふ風な關係から最も有利な條件にある爲に偉くなるといふ事が考へられる。次に以上の如く低能者或は偉人ではなく普通の兒童に就て出生順位と智能とを調べて見る。

青木誠四郎氏(生活の諸條件と智能並に學業成績との關係、兒童研究所紀要五六七卷)が女學校一年生二百名に就いて出生順位と智能並に學校成績をみた處智能は殆んど差違はなく、只學校成績は末子の方が悪い、智能指數で學校成績を除いた成就率(之は努力の程度を示す)を見るに第三子位が最も努力して居り末子になる程努力の跡が無くなつてゐる。

出生順位	智能指數平均	學業成績	成熟率
長子	九八・三	一〇〇・三	一〇四

二子	一〇一・三	一〇四	一〇三
三子	九五・五	一〇一・三	一〇四
四子	一〇二・〇	一〇一・五	一〇二
五子	一〇〇・六	一〇二・八	一〇〇・六
六子	九八	九五・四	九八
七子以下	九八	九一	九八

即ち智能には相違がなく、努力の點で相違して従つて學業成績は變つて來る。

シャオが小學兒童及び中學生に就き、長子と次子との智能の比較を試みた所、智能だけでは同様に統計的に信頼するに足る差異なしと云つて居る。斯る點より見れば智能自身は出生順位と餘り關係なく情意的方面即ち性質に於て相異が生ずるを考へられる。

この性質に關係してはグールドエナフ及びリーヒイの研究がある。女史等は幼稚園の園兒、二百九十三名の諸性質につき保姆が觀察評定した結果を纏めて居る。觀察が信頼出来る爲に一學期以上在園の園兒に就て十四の性質から評定したものである。この中出生順位によつて異なつて來る様な諸性質を上げるに次表の様になる。

以下	46	48	13	21	4	15	13	17
末子	124	45	44	36	8	20	11	6
中間子	59	36	31	30	15	24	17	14
長子	64	23	30	48	21	28	25	9

数的
勢
他
向
人
攻
排
内
柔
臆
病
被
感

表は各性質の點數を擧げてあるので、點數の多い程それらの性質の著るしい事を意味する。即ち長子は攻勢的でなく引籠りがちで内向的であり、従順で更に臆病で、自信がなく他人の暗示に最もかかり易い。之に對して

末子は攻撃的であるが、自分に垣を造り従順でなく他にも影響されず感情的でない。即ち前者と反對の性質を帯びてゐる。一人子の場合には更に攻勢的で、他に對して垣を作る事はないが他に從ふ事を欲せず自信に満ち、感情的である。今一人子の事が出たが之に就ては色々の研究がなされて居る。

例へば、兼子宙氏二人子の學級内での人氣、教育心理研究七卷は小學校三學年から六學年まで十學級、人員男女合

計四百八十二名の中四十三名の一人子に就いて其クラス内の人氣を研究した。其遣方はクラスの各生徒に夫々級の中の仲好しの友達の名を仲の悪い者の名を列記させた。而して仲好しとされる者も嫌はれる者も一人子の場合も一人子ならざる場合も如何に相違するかをみる。其結果は一般的に云ふも一人子は非一人子よりも仲好しとされる事が少い傾向があり、嫌はれる數で云ふも多くなつてをる。併し極めて人望のある者(友人とされる數の多い者)だけについて見るも一人子の方が非一人子よりも多い、即ち次の如くなる。

友人二十四—二十六人あるもの 二十七人以上あるもの

一人子の中に 九・三%

非一人子の中に 四・一

一人子

一一・六%

五・四

反對に非常に嫌はれる者も一人子の方に多い。

嫌はれる數十五人以上のもの

一人子

一一・七%

非一人子

五・七

要するに一人子はクラス内では一般に氣受が悪く友人と云はれる事が少い傾向があるが、又非常に人氣のある者に

もなり、非常に嫌はれる者にもなる。即ち兩極端に流れる傾向もある。併し斯く云ふも一人子は非常に他と相違した困つた性質を持つ様に考へるかもしれぬが一人子が必ずしも全部神經質であつたりヒステリカルであつたり、手が付けられない者ではなく、又學業成績等も決して劣るものではない。尙一人子については山下俊郎氏が詳細な論述をなされて居るから参照されたい。(一人子の心理及び教育に関する諸問題、教育心理研究第八卷)。

以上、家庭的環境中、家族の數並びに出生順位につき、最近の諸研究を紹介したが、この種の研究は兒童心理學の中でも最近の研究であるので研究結果は必ずしも一致してはるないが將來に於ては必ずやより確實なる結論が下され、教育指導に重要な參考資料を提供するに至るに信ずる。

幼稚園に於ける優秀児の取扱

中村楠雄

六八

今假りに一人の保姆が、三十人の子供を擔任したまひました時、往々其の中から、他のお仲間より總てに一段の優秀性を持つ子供——平たく言へば進んだ子供——を見出すものであります。

又他の事は餘りバツミしないが、或る何か一つの事に仲しいゝ素質を持つてゐるらしい事を、發見する場合もあります。

兎に角、以上の様な子供を總稱して、こゝでは優秀児と名づけて見ますが、これらの優秀児に就て、私共はよく考慮した教育をしてゐるであらうか、如何に考へてやるべきであらうか、さういふ様な事柄に就て、記述して見様と思ふのであります。

勿論此の問題は新らしいものではなく、幼稚園にしても、小學校にしても、從來論ぜられ、且つ多少の具體的な試みもせられたのであります。其の實際に就て見ますれば、決して至れり言ひ得る現状ではないと考へられます。

そこで私は、少なくとも幼稚園では、此の問題に就て、今少し熱度を高めて、具體的な切實な研究を、努力がほしいと希望するのであります。

かく言ひますと、或は、幼稚園では、そんなにまで窮屈に考へなくてもよろしい、只多くの子供を楽しく遊ばせさへすればよいのだ、さういふ風の論者があるかも知れません。まことに其の説の通り、只楽しく遊ばせさへすればよいのであります。其の楽しく遊ばせる爲めには、かへつて

大いに、此の優秀兒の取扱い方方面なごに、工夫を要するのではないか、と思ふのであります。

私共の實際の經驗から申して見ましても、こうした方面に不注意になりますと、さうも子供がよく遊んでくれません。

例へば、手技をやるにしても、何しろ一團の子供の中には器用、不器用の差のあるのは勿論の事です。さうするご其の中の、數人の極器用な子供、つまり其の方面に優秀な數人は、早く仕事を仕上げてしまつて、さて後はさうするでせう。そこは子供の事ですから、決してちつち致しはしません。いらぬおせつかいを始める。他人の邪魔をする、争ひが起る、騒ぐ、泣く、さいつた結果を生じてくるのであります。

かゝる状態は申すまでもなく、その優秀なる子供にまつても、はたまた、他に子供にまつても、決して楽しい遊びの姿ではありません。むしろ伸び行く芽をつみさり、惡の萌芽をつちかつてゐる様なものでありませう。

これでは決して、子供を上手に遊ばせるごは申されませ

ん。そこで若し、そこに一工夫されて、力のある子供には、其の力に相應した作業が、與へられるならば、それらの子供は、みんなにかゞやかしい希望に胸を躍らせ、嬉々として仕事に熱中する事でせう。さうして、さういふ氣分、空氣が、自然他の子供にも影響して、やはり力相當、自己の仕事に熱中するに至りませう。こゝに力あるものは、益々伸ばされるご共に、また全體としての進展ご幸福が見出されるのであります。

優秀兒の取扱なごいふご、變に角ばつて聞えるが、つまり個性に即し、能力に應じた取扱ごいふ事になるので、吾々は幼兒の保育に忠實なれば、當然考へねばならぬ問題なのであります。

斯の如く、優秀兒の取扱ごいふ事にまで、よく工夫されてこそ、所謂ごの子供にも時ご場所を得させるご言ひますか、即ち全體ごして没頭的な、一生懸命な生活をさせる事になるのだご思ひます。

幼兒を預る吾々の仕事は、ごの子供も、いつも、嬉々として、生命を打ちこんだ生活をさせる事にあるのだご思ひ

ます。言ひかへますと、幼児の生活を充實させる事なので
考へます。

して見るに、優秀児に特別に留意してやらねばならぬの
は、幼児教育の本質からしても、當然の事ではある、かく
てこそ、ごの子供にも充實した生活をさせるまいふ事にな
るのだと思ひます。

今私の優秀児の取扱ひを力説する所以は、一つは保育者
の當然の任務だといふ事を、更らに高張したいの事、今一
つは、其の當然の責務が十分にはたされてゐるや、否やの、
注意を喚起したいまであります。

三

この優秀児に對する、多くの父兄、保育者の考を便宜上
大別しますと、

イ、さうしてよいか迷つてゐるもの。

ロ、何にも手を加へずに打ち捨て、置こうとするもの。

ハ、出来るだけ手入れを仕様とするもの。

の凡そ三つになるのでなからうかと思ひます。

さてイはまづさし置きました。ロとハについて論究して

見ますが、これが即ちイロハ三問の解答になるのだと考へ
ます。

私の考へを以てしますれば、全然手を加へまいとする事
も、決して穩當でなく、それか言つて、出来るだけ手入
れをして行かうとする事も、この文字通りでは承服出来な
いのであります。

然らば如何にすればよろしいか、今實例をあげて述べて
見たいと思ひます。

時々幼児の保護者から受ける質問は、一體入學前の子供
に文字の生活や、數の生活をさせてよろしいか、さうか
いふ事でありませう。こゝで申します文字の生活や數の生活
をさせて宜しいかさうかといふ事は、つまり積極的にやら
せてよいかさうかといふ意味になるのであります。これ
は避けたがよいと思ひます。なぜなら、それは荷がかち
過ぎて、幼少な身心の發育に障礙を來たす心配があるから
であります。

しかしそれでは打ち捨て、置こうとしても、さうした生
活は必然に生じて來るのであります。例へば、ま、ご遊び

を致しなくても、日用品の買入れなどの場面には、必らず幼稚ながらも数の生活を體驗するのであります。其他各種の遊びの中には、其の数の生活を要求する場合は相當多數に含まれて居るのであります。又文字の遊びにしましても、お兄さんや、お姉さんのお勉強のまねをしたり、お兄さん達の學校でつこにお仲間入りをしたり、お姉さんといつしよに繪本を見たりといふ具合に、いつしか文字の生活に入つて行くのであります。

所で子供は段々、これらの生活に興味を持つて來て、自ら發動的に一層度を強めて、或は深く、或は博く、其の慾求を満足せしめ様とするに至ります。

然らば、かゝる場合にも、手を加ふるは悪しき事として打ち捨て置くべきか、實にこゝこそよく考へねばならぬ點であると思はれます。即ちさうした場合に、程よく指導され、適度に満足せしめられてこそ、彼等は益々元氣つき、希望に輝やくのであります。そこに良き發達は見出されるのであります。それに折角の美くしい望も、何ら相手にされず、そのみか不必要にして退けられる様な目に合はさ

れたなら、さうして素直に伸びて行かれませう。或は人間全體として萎縮してしまふか、或は勢力の餘る所多くは悪しき方向へ傾むくのであります。

要するに、數や文字に就ても、餘りに子供の年齢に精神の發達程度を無視して、積極的に働きかけ過ぎるから惡いので、子供の自發的要求を中心として、適度に輔導するのこそ本當に正しい教育的態度だと思ひます。

そこで優秀兒に手を加ふるは可か、加へざるは可かの問題にたち返へりますが、つまり此處に數の生活なり、または文字の生活なりに比較的興味を強く持つてゐる子供がありましますなら、即ち其の方面の優秀兒がありましますなら、既述の理由より考へても分る通り、適度に輔導を加へるのこそ本當だと思ひます。唯くれぐれも注意すべきことは、本人の要求以上には出ぬこと、荷がすぎぬことであるます。

其の他の各種の遊びにも、それぐの優秀兒に良き注意を指導が加へられる事は、實に望ましい事でありませうのは、最早説明するまでもない事と思はれます。

さて以上の様な精神で育てられた子供は、小學校へ行つてから、その先生達から、多くきんな眼で見てるられるか、さいふ事に關して少し考へて見様と思ふのであります。まだ、今でも小學校の先生の中には、随分つめたい眼で幼稚園を見てゐる人の相當にある事でありませう。わけもなく幼稚園さいふものに、反感を持つてゐるらしく思はれる事もあるのであります。

一體これは何故か言ひませう、幼稚園から來た子供は落ちつきがない、何か知つた顔をして邪魔になる、教へ過ぎてゐる等と思はれる點にあるらしいのであります。幼稚園へこない子供は、幼稚園を出た子供は、くらべませう、一見幼稚園を出た子供は、お行儀がわるい様に見えませう。一方は始めての生活のために、恐い、さいふ様な心も手傳つて、萬事ひかへ目にしてゐるものに、一方は先生にも、建物にも、團體生活にもすつかりなれてゐるもので、遠慮なく、先生に飛びついても來ませうし、話しかけてもきます。先生に教へられずとも、一人で便所にも行きますし、運動

場に行つて遊びもします。之を見た學校の先生は、一年生さいふものは本當に何にも知らぬ、自分の言ふ通りにばかりなるものさ一人できめてゐるた豫期さ、すつかり相反する感じを抱くのであります。そして結局幼稚園から來た子供は可愛げがない、子供らしくない、だから幼稚園へやるのはよくないさいふ事に落つくらしく窺はれるのであります。

これを幼稚園の先生から言ひませう、誠に殘念な話ではにかんでばかりゐたり、泣いてばかりゐたり、すねてばかりゐた、更に幼なかつた人達を、今日この様に元氣な、自立的な子供にするのに、並々ならぬ苦心さ苦勞がいつた筈です。ほめても貰ふべき所を、反對に悪るくゐられるのですから、實に氣の毒な事でありませう。

若し幼稚園の先生が、引續き一年生を擔任したまひませう、決して學校の先生の様な感じを抱きませぬのみか、かへつて幼稚園へ行かなかつた子供は、萬事に手が多くかゝつて、さちらかさいふ多少迷惑に感じる　みんな幼稚園を出た子供ばかりならよいのと思ふだらうと思へませう。

現に私の知つてゐる或る學校では、團體生活になれた幼

幼稚園出身の子供の混合してゐる事は、一年生初歩の取扱上非常に都合よしとして、一年生のこのクラスにも、幼稚園出身児を配當される様に、一年擔任の方々から、申出がある云ふ事を聞いて居ります。我田引水かも知れませんが、これは私は公平な本當な考へだと思ひます。

次に知つたかぶりをして困る、こいふ話もありますが、これにて前述の理由に等しく、一年の子供に言つたら、餘りに何にも知らぬこ、きめてかゝるからだと思ひます。やはり幼稚園の先生が持ち上つたこしたら、邪魔になる所か、大いに利用し、活用する所で、幼稚園から來た子供は、やつぱりいゝこ、頗る満足なる點ではないかと思はれます。

幼稚園出身児の一番學校の先生に邪魔だと思はれるのは、算術に讀本の時間——殊に讀本の時間でないかと思はれます。サア今日から讀本巻一を教へてやらうと思つて、やをら第一ハナの所の掛圖を掲示するこ、

「先生、知つてゐます。そこハナです」。

「先生、ハナつて僕かけます」。

なごこ、失つぎばやに發言されるこ、幼稚園の子供、先生

になれ親しんで、むやみな遠慮のしない子供つて事を、知らなかつた先生は、自分の計畫を、めちやくにされた様な感じを、或ひは起すかも知りません。そこで幼稚園出身の子供は、迷惑がられる事になるのでせう。サルカニ合戦を取扱ふ所にくる、子供は何にも知らぬつもりで、

「これから、サルカニ合戦のお話をしてあげませう」。

こでも言はふものなら、

「先生、幼稚園でございました」。

なごこ、盛に發表したがりです。自己を示さうとします。先生、事志、違ふこいふわけで、がつかりしてしまひます。そこで幼稚園から來た子供は邪魔に考へられるこいふ事になるのでせう。

父兄の中には「兎に角幼稚園へ行つた子供は、さうも先生のお邪魔になる様に伺ひますので、考へものだこも思ひます」。こおつしやる方もあります。これは確かに父兄側として、一理ある言葉と思ひます。

さて枝葉末節について、兎角の否難が時に加へられるこ

しても、幼稚園教育の原理を否定出来ない限り、少しも氣にする必要はないと思ひます。そして教育上個性を尊重し、能力に即した取扱の大切な事は、更めて論ずるまでもない事で、然らば私の所謂、優秀兒の取扱いふ事も、尙然吾の爲さねばならぬ事でありませぬ。たゞひ學校なきへ行つてから、多少の否難はありしても、吾々は吾々の信ずる方向に、一生懸命に、恐れずに進んで行かねばなりません。唯心すべきは、私共自身間違つた教育をせないといふ深き注意も、も一つ私共の教へ子を、一々完全に、十分に學校の先生に引繼ぐだけの熱意と工夫とがなければなりません。之が幼稚園の教育を、學校側に理解せしめる働きもなり、私共教へ子の幸福を加へる手段ともなる事と信じます。

五

以上によつても、幼稚園の優秀兒に對しては、優秀兒として、相當の考慮をはらつてやらねばならぬといふ事に、いくらか觸れて來たのでありますが、更らに今少しくこの點をつき進んで論じて見たいのであります。

よく六歳以後で音楽を始める様な事では、到底大音楽家

になれないといふ様な話を、耳に致しますが、漁夫なきでも、此の頃の子供は學校へ行くから、櫓漕ぎが下手だといふさうです。之によつて見ても、年をこつてから始めては、もう一生伸びなかつたり、又伸びても、其伸び方が悪かつたりする事は、事實です。此様に教育を始める時期が遅れば遅れる程、能力發現の割合が少なくなる事を、能力可能性遞減の法則と申します。よく心理學の書物なきに、雖が親について廻はる能力の發達期間は四日間位で、其の間を親と全く隔離すれば、最早親をしたふ性能を喪失するまかかれてゐます。斯る如く吾々人間の子供も、やはり其能力發達の爲めには、指導の時期があるのであり、此間によき注意、よき教育が施こされるか否かは、其の子供にこつて、實に重大な關係を持つといふ事が分るのであります。

さて私共は私共の子供達が持つ、良い萌芽を見落してはゐるなからうか。又見出し得たとしてもよく伸展せしむべく努力をしてゐるだらうか。十分に考へない人達の唯一がいな、幼稚園で教へてはならぬといふ言議に従ひ過ぎる場合は多くなからうか。私は幼稚園の本當の教育といふもの

は、其の子供々々の天分を見出して、其の性能に應じて、充實した良き生活をさせるにあると言ひたいのです。幼稚園は子供を愉快に、ほがらかに遊ばせる所であるといふのは、間違ひのない事であつても、唯子守がわけもなく子供を遊ばせたりするのこは、大きな差がある筈です。

そして私の考へる所では、今の幼稚園では、天分豊かな子供に對しての輔導といふ事は、一番缺けてゐるのでないかと思はれるのです。さて、こいつても學校の様な方式で學問の教授をせよといふのではありません。正しい着眼、

正しい方法によつて、其の恵まれた天分を伸ばしてやりた
いといふのです。私共の子供達の中にも、ピットや、バ
カルや、ゲーテの卵も居やうではありませんか。人生に於
ての最も大切な時期を預かる私達が、自己の不注意の爲に、
努力の足りない爲に、此大切な卵を殺してしまふ様な事
をしては、其の本人の爲めは申すまでもなく、廣く人類社會
の發達の爲に實に残念な事だと思はれてなりません。

よき注意の下に、正しき教育の施される事は、如何に偉
大な働きのあるものかといふ事を知つて頂くために、以下

一三の例を擧げて見ます。(小原國芳氏、母の爲めの教育學
による)。

バスカル物理學に於ける「バスカルの原理」や數學の
「バスカルの六邊形」で有名なバスカルは、物理學や數學
の大家です。しかも「バスカルの定理」にして有名な六
邊形の問題は、まだ十六歳の紅顔の少年バスカルによつ
て發見されたのです。これは彼の父ミ、姉の早教育の賜
です。

ロード・ケルヴィン即ちウィリアム・トムソン彼の父
は、ジェームスミ、ウィリアムの兄弟の二人を、口が利
く様になるや否や、読み書きをはじめ、妻と一緒に數學、
歴史、地理、博物などを教へました。ジェームスが十歳、
ウィリアムが八歳の時には大學の講義の聽講に出まし
た。成績良好で、二年後十二歳で正式にグラスゴ
ー大學に入學を許可されました。しかも一番二番はい
つも兄弟二人でしめて居ました。しかも彼等は二十すぐ
れば凡みの人でなくて、兄は工學の大家、弟はロード・
ケルヴィンにして大物理學者となり、兄は七十歳、弟は

八十三歳まで活動致しました。

ジョン・スチュアート・ミルは政治學や倫理學、經濟學や論理學で有名なミルです。彼の父は、生後一年半にして、自國語の教育を始めました。三歳の時からギリシヤ語、八歳からラテン語を始めました。有名な功利説は彼の十六歳の時の學説です。そして彼は蒲柳の質でしたが、六十七まで生きました。

詩聖ゲーテは八歳で、ドイツ語、フランス語、イタリー語、ラテン語、ギリシヤ語を自由に読み書きが出来ました。彼の傑作「ゲッツ」は二十二歳の時の作です。そして八十三の長壽を保ちました。

ピットは二十三で大藏大臣になり、二十四で總理大臣になり、國務多端の際祖國を擔つて立つたピットも早教育を受けた人です。

カール・ウイッテは最も有名な教育的に大事な例は、ウイッテの父が其の子に施した教育です。子供は赤ん坊の時から教育しなければ、眞に偉大ならしめる事は出来ない。ウイッテは氣の毒な程發育のわる

い子でした。「如何なる罪科のために、神はかくの如き痴鈍な子を我に賜はつたものか」父も嘆いた位でした。近所の人達も白痴だと思つてゐました。父は非常に努力致しました。その結果、近所の人達も全く驚きました。

八九歳でドイツ語、フランス語、イタリー語、ラテン語、英語、ギリシヤ語の六つに通じました。動植物、物理化學、數學に通じ、特に數學に秀で、九つの時にはライプツヒヒ大學の入學試験に及第し、十四の時には哲學博士になり、十六の時には法學博士になり、ベルリン大學の教授になりました。藝術にも深い研究を有し、ゲンテ研究の泰斗になりました。八十三歳の高齡まで、高評噴々たる講義をつづけました。

さて誤解のない様に、再び繰り返しますが、所謂早教育を主張するのでありません。要はもつこもつこ個性を重視した教育でありたいといふ事、引いては今少しく優秀兒童の取扱ひに考慮を致したいとの主張に他ならぬのであります。

幸ひに私共の見識が方法が正しく、且つ熱心な努力がつゞけられて、或程度までよく指導された子供があるとして、果して小學校へ行つてからも、かく一貫した精神で教養がつゞけられて行くだらうか、これにはどうしたらよからうか、こうした疑問がきつて生ずる事と思ひます。これにはまづ幼稚園としては、其の子供に關しての觀察、録でもいつたものを作つて、入學と同時に其の學校の校長又は擔任の先生に提出して參考に供する事が要件の一つだと思ひます。次にはそれぐの入學校に幼稚園側から出張して、校長なり、擔任の先生なりに親しく會つて、其の子供を引きつぎ且つ相談する事も大切でせう。或は其の年度の一年擔任の先生を幼稚園に招待して懇談會を開く事なごも、有益な方法の一つでせう。

(しかしてこの點は、學校へ幼稚園の併設されてゐる所では、相當好都合に行くのではないかと考へます。そこではまづ幼稚園の先生は必らず小學校の二三年まで持ち上る事になれば、第一早速に異なつた方法、精神で教育される心配はまづなくなりません。そして幼稚園の先生も、學校の先生

とは循環的に交代されるので、幼稚園と小學校との教育は相互によく理解され、殊に校長が園長を兼ねてゐる事でもあるから、まづ一貫した教育が施される筈だと思ひます。こんな所では實際問題として、まづ保母の質と資格の向上をはかつて、訓練兼職する必要も生じませう。

この優秀兒の取扱ひといふ事をよくやらうと思ひますには、獨立した幼稚園に於ても、すべて今一段保母の質の向上といふ事をはからねばならないのは勿論だと思へてゐます。

尙また、其の子供の直接の教育指導者は、幼稚園から小學校へいつながらぬ場合は多いにしても、保護者、父兄といふものはまづ一貫して變らないものであります。故にこの優秀兒の取扱ひに於ても、最も大切な要素の一つは父兄であります。よつて幼稚園時代から、その父兄をして其の子の教育の完成の爲めには、自己は重大な責任を持つてゐるものであるとの、十分なる自覺を與へ、小學校へ進んでからも、其の擔任の先生と緊密なる連絡をこつて、益々熱心に其の子の教育に當らしめねばならないと思へます。(丁)

保姆先生に此人あり

—近畿風水害に現れたる美談—

箕 作 長 郎

七八

過般近畿大風水害は往年の關東大震災に比すべき慘禍でありまして、幾多の悲話哀談のあると同時に此の危急の際に又壯烈鬼神を泣かしめる様な事蹟や、慈悲佛心の如き人情美發露の事實があります。中でも學校の先生殊にかよ

わい女訓導中にも多くの殉職者があつて孰れも師道の華として神にも祀るべき方々であることは洵に意を強うするものであります。大阪府豊能郡豊津小學校吉岡女先生の美績の如きは逸早く全國的に婦人雜誌にさへ報道せられてゐます。又大阪府學務課からは「殉職教員美談集」も發行せられ其不滅の功績を頌表せられてゐますが、幸か不幸か幼稚園保姆の方の氏名の見當りませぬはごうしたごきか。想ふに幼稚園は普通の學校よりは始業時が遅かつたので大體風勢

の最も烈しかつた時刻を避け得たのミ、又幼兒は暴風を冒してまで登園するのが稀であつたであらう。それで保姆先生としてはさして危急の場合に遭遇して居られなかつたミも考へられるのであります。

今茲に大阪市西區江戸堀幼稚園保姆谷口綾子先生のこころを紹介したいと思ひますが、先生のも公務上のこころよりも寧ろ私行に屬する奇篤の行爲であります。偶々風水害に際して其の立派な人格よりして自然に現はれた善行美談でありまして恐らくは世道人心を感激醇化するに足るものと思ひます。

九月二十一日の大阪はさすが殷盛歡樂の水の都もあの世界的戦慄の颯風ミ津浪で一瞬にして阿鼻叫喚の巷に變じま

した。この朝江戸堀幼稚園では僅か四人の登園幼児でありましたが、丁度谷口先生は早出當番として洋館遊戯室へ此の幼児を收容し監護してをられましたので、幼児たちは殆ど外の恐ろしい光景を知らずに風の鎮まるまで時を過しました。併し大風一過の當日も翌日も窓硝子の破壊した各室の取片付や、藤棚、樹木が殆ど悉く倒折し、瓦や板の散亂した園庭の整理掃除に同域内にある小學校も幼稚園の職員、使丁、兒童總が、りで勞力奉仕をしました。引續き最も慘害の酷かつた他區への救援作業の焚出し等で一同目の廻る程な活躍をせられました。

稍々平靜に歸つた谷口先生はあわて、舊同僚の三浦ひさ女史(假名)を其のお住居の港區鶴町四丁目へ見舞はれました。三浦女史といふのは此の幼稚園に保姆として永い間勤務せられ、七年前に老齡の故を以つて勇退せられた方です。併しお氣の毒なこころには事情があつて身邊の人には殆ど顧みられず、剩へ四年前に自動車に衝突して怪我をせられてからは歩行の自由を失ひ、今では年中一室に蟄居のまゝ唯坐つたり寢たりするきりで、それでもたしなみのよいお方

で何一つ不足も言はずよく隠忍して靜かに餘生を送つて居られました。谷口先生は平素から同女史の身の上に同情して折々訪問して慰めて居られました。時には「私のうちへいらつしやいませんか」も勧められることもあつたが老女史は義理から「さうも参りません」も否んでをられたのです。今度の變災で海に近い處は高潮の奔溢でさんぐの被害であることは通信交通杜絶の中にも早く噂が高まりました。谷口先生も「三浦女史のあの不自由なおからだではさだめてお難儀であらう、ひよつこしたら」も氣が氣で無く駆けつけられた。

老女史は當時俄かに押寄せた渦巻く濁流が床上六尺まで浸水し、脚腰たゝぬ體なれば、もはや運を天に任せてやつゝ浮き上つた疊に縋つて數時間待つうち、次第に水が引き再び床上に落着き、危く一命は助つたものゝ此の混雜で一層身邊の人の手を借るこころも出來ず。身動きもならず助けも叫び得ず、唯相かはらず黙々として神に祈りつゞけて居られたのです。息せき訪れられた谷口先生の顔を見たゞけでもみんなに嬉しかつたこころでせう。谷口先生はあまり

のおいたはしさに無理に三浦家の人に請うて女史を自宅に引取ることにし、事情を訴へ警官のおきりなしで辛うじて一臺の自動車を雇ひ東區農人橋筋の宅へ伴ひ來られました。そして大小便の世話はもこより醫師を招いて手當を施したり、更に老女史を自ら背負つて風呂屋にお連れして丁寧に洗つて上げ、食事も自ら吟味調理してすゝめられ、「先生さうかお氣つかひなく何時迄もこゝにゐて下さい」とやさしい言葉に老女史も「あなたならこそ」涙ながらに手を合はせて喜ばれるのでした。

こゝで一寸谷口先生の身上のこゝを記して置きますが、先生の近親は御兩親とお兄様とがありますけれど家業の都合で當分三人とも京都に別居して店を經營して居られ、大阪の自宅は先生の義弟と店員三人で紙商を營んでをられます、女手は先生一人で、而も先生は未婚ですけれども、主婦としての一家整理の任に當られその上幼稚園の勤務も決して忽にせられない。園長さんのお話によるも、谷口先生の精勤なこゝ、其の保育振のよいこゝ、又研究心に富み何事も上達が早く、而も率先して勞務を厭はず、働いてく

働きぬき、そして人の喜ぶ顔を見て楽しむいふ風、併しこれ程手八丁でも口八丁ならず、至つて謙讓でその上愛敬があり、大阪府立清水谷高女卒業後、尋正、小木正の教員資格を試験検定でこつて居るのは既に才智の人たるを證するもので婦人として徳操完き方であるこゝを極めて推奨してをられます。

そして皆様に考へて戴きたいこゝは谷口先生が三浦女史に對して斯程までに深切を盡さねばならぬ如何なる關係があるかといふこゝです。こゝろがお二人は元の同僚とは申すものゝ同勤して居られたのは三ヶ月に足りません。外には何等の縁故もありません。唯谷口先生は先輩を景仰し長老を勞はるの純情さ、さうして三浦女史の不幸な境遇に同情する惻隱の流露によるのみなのであります。それで以て普通の人では肉親に對してさへ出來兼ねる懇切を極めたお世話振り何さいふ美しい行爲であります。かうして家事と公務にいそしみながら朝な夕なに老女史へ捧げる心盡しの麗はしい姿は見る人唯感歎の外はありません。而も先生は成可く之を祕して人には談られない。(以下八五頁へ)



兒童映畫に就いて

——『にんじん』と『母の手』から——

奥 平 美 雄

今年の映畫界は歐洲映畫に名作が多かつたやうですが、中にも『にんじん』と『母の手』は随分評判でありました。『にんじん』も『母の手』も御承知のやうに子供を主題とした、子供の世界、子供の心理を描いたものでありますが、之が意外にいろんな方面から賞讃を博して居ります。

『にんじん』の原作は、フランスのあの有名な小説家ジュール、ルナールの同名の作品に據つたものでありますが、原作は幾つもの個々の挿話によつて連結されてゐて、あの映畫に現はされてゐるやうな一貫した劇的な筋を有つたものではありません。そこには「言葉のイメーヂの獵人」と呼ばれたルナールの繊細な筆で、巧みにユーモアの中に子供のペーソスが描きつくされてあります。ルナールの文學を愛する人は、恐らく彼の文章の文字と文字との間から一つ

の抒情詩風な感銘を享けられたこと、思ひます。

ところが映畫といふものは、文學とちがつて個々の獨立した挿話を集めて一つの作品を作るわけには行きません。さうしても一貫した劇的な構成が、言ひ換へるに伏線や、やまといふものがないと成就出来ない性質のもので、ですから、映畫の方の『にんじん』は原作の小説とは随分様子がちがつたものとなつて居ります。ですから映畫の『にんじん』から享けた私の感銘は原作のそれから享けたやうな詩的な柔かなものではない、さうもぎぎつい、何もなく強すぎる、無理がある、母親の子供に對する態度なんかあまりひどすぎる、あんなものぢやない、うそだ、こいふ氣が私にはいりました。その點で私はこの映畫を世の批評家や一般のファンと同じやうに高く買ふことが出来ませんでした。

次に最近の『母の手』を云ふのは、之もフランスの映畫であります、一九〇四年のゴンクウル賞を獲たレオン、フラビエの「保育園」をいふ小説を映畫化したものだそうです、この映畫の會社側の宣傳によります、フランスでは自國の映畫でこれ程偉大な感動を觀客に與へたものはこれまで一つもなかつたといふことすし、ドイツでは、ヒツトラーさへ泣いて感激し、フランス物であるに拘らず輸入税を免除したほざだ！といふ最上級の賞讃が記されてあります。にも拘らず、今度は私はこの作品では期待してゐた程の迫力といふものを感じるこゝが出来なかつた。私はまだこの原作を讀んでゐませんから原作のこゝは、わかりませんが、恐らく原作の迫力はもつゝ強い、胸打つものではないからうかご想像してゐますが、この作品にはさうも全體の調子が一律で弱すぎる。之は『にんじん』の場合とは反對に、もつミクライマックスといふものが強く盛上げられて好いのぢやないかご考へられるのです。折角貧しい子供達の群がよく描かれてゐるにも拘らず、之に投ぜられる母の手の如き愛の強さの表現があまりにおさなすぎます。

私は實はこの映畫を見に行くさきにもう一度遠い昔に返つて母親の懐ろの温さを思ひ出して、靜かに泣けることを期待して映畫館に入つたのですが、遺憾乍らさういふ期待には添ひ得ませんでした。そして會社の宣傳文に書かれてあるこゝが寧ろ異様にさへ感ぜられたのです。

私は以上で、今年の映畫中の名作を稱讃された二つの作品について、あまり高く購ひ得ませんでした、然しなほ是等を没却はいたしません。それには少くとも二つの理由があります。その一つは是等の映畫が何れもフランス映畫であるといふこと、もう一つはこの何れもが小さき子等の世界にレンズを向けてゐるといふことであります。何故フランス映畫であるといふことが私の注意を惹くかご申します、古來フランスといふ國は御承知のやうに藝術的に感覺のすぐれた國であります。例へば近代繪畫の新しい發祥地と見ても差支へないほどの國であります、之が映畫の方面に於いても一種獨特の色彩を持つて居ります。一三口に申しますと畫面全體がやはらかで、肌きが細やかなのであ

ります。従つて畫面のリズムに荒々しいところが無い、極めてスムーズであります。ですから、かうした子供の世界を描くには非常に詩的な、藝術味の豊かな作品が生れ易い素地があるやうに考へられます。このこゝは前に掲げた二つの映畫の中でも充分看取されます。之はドイツ映畫やアメリカ映畫の中では容易に見出し得るものではないのであります。

次に是等の作品が子供の世界を主題としてゐるこゝから關聯して、兒童映畫といふものに就いて少し考へて見たいと思ひます。古くから子供をその中に取り入れた映畫も相當ありますがその中から印象的な作品を二三拾つて見ますと、フランスのジャック、フェデーの『雪崩』、チャップリンの『キッド』、ピックフォードの『小公子』、それから最近になつてアメリカ、トーキーの『スキピ』や『スキー』、『僕はカウボーイ』等があります。この中でもジャック、フェデーの『雪崩』は、母親を失つた十二三の少年が、亡くなつたお母さんの代りに入つて來た新しい母親とその連れ子に對して、さうしてもうち融けるこゝが出来ない、死ん

だお母さんの戀しい面影を想へば想ふほど、新しい侵入者が憎くてたまらない、そして之に對して反抗して行くこゝが子供らしい遺瀨ない細かい心づかひを描いたものであります。之は映畫史上の一つの傑作として今日ではクラシックにきりあげられてゐるものでありますが、之は實に良いものであります。チャップリンの『キッド』もピックフォードの『小公子』も何れも傑作でありましたが、最近トーキーになつてからノーマン、タウログのいふ監督が次々に兒童の世界を描いて『スキピ』とか『スキー』といふ作品を作りましたが、之には小さい子供のあざけれない聲や會話が聞えて來ます。子供の聲といふものや、子供の會話といふものは世界の何れの國であつても何かしら詩的な快いものに聞えて來るさ見えて、見てゐる中々可愛いものであります。然しアメリカの映畫は何處かあざけなさに缺けてゐます、何さなく大人臭くて、狙ひどころの山が大きすぎる感じがします。

そこで兒童映畫といふものについて二つのこゝが考へられるのであります。之は兒童映畫といふものが存在する

とすれば、一體その対象であるところの観客は何ういふ人達であるかといふことが大きな問題になつて参ります。つまりこの対象は大人におくか、児童におくかといふことで、自づこ映畫の内容なり、製作態度なりが異つて來ます。在來の子供を描いた映畫は、子供が見るためより大人が見るためのものでありましたから、謂はゞ「大人の繪本」いふ趣きを具えてゐたのです。さきのフェデーの『雪崩』の如き傑作でも、大人にまつてこそ傑作でも果して子供が見て打たれるがさうかは疑問です。然しかうした大人のための、

児童を主題にした映畫は大いにあつて好い譯です。現代の大人といふものは日々の生活のため、社會の煩忙に紡れて童心さいふものからは遙かに遠のいて居ります。かういふ硬化した潤ひのない世界には何うしても童心を盛つた藝術が必要で、子供の語る一つ一つの言葉には勿論多くの詩があります。新鮮で、そして鋭い感覺の表示がありますから胸を打たれるところも大きくあります。又子供等の語るかたこみの發音には樂器では聞けない生々した音樂があるやうです。して見るさかうした詩や音樂をトーカーによつ

て接することは大きな收穫でなければなりません。この意味で「大人のための児童映畫」といふものがもつて發達して好いといふことが考へられますが、然し、童心を描くといふことは如何にも難しいことゝ見えて大人自身の生活を描いた映畫に較べるに殆んどお話にならぬ位少い。又製作されても傑作には乏しいやうであります。殊に日本に於いてはこの種の映畫には全く冷淡です。

次にこの児童映畫の觀客対象を児童それ自身に向けるといふ態度です。このことは前の場合以上に一層重大な意義を有ります。児童のための映畫、児童の情操なり智育なりに裨益するための映畫、かういふものは之からは次第に發展して行かなければならぬ大きな問題であります。ところが、現代の映畫製作所といふものは承知の如く殆んど全く營利資本主義的でありますから、儲かるもの以外には決して手を出さない。殊に映畫觀客層といふものが殆んど全部が大人である以上、故意に子供のためのものを作つて損をする馬鹿はしません。かういふ譯で「児童のための映畫」といふものは事實そんなに發達してゐないのであります。

然し之は之からさうしても進展させなければならぬものだと思ひます。それには、さうしても營利を離れた製作の方法を探らなければならぬ。そして之は國家の事業にするか、又は教育團體の事業にするかして、この道の研究家と映畫技術家との提携が必要だと思考へられます。

現在、外國では、例へばドイツだとか、ロシアなどでは文化映畫の製作が重要視されて居ります。之は近代科學の偉大な所産としての映畫を利用して、一般國民の文化的智識の開發を促さうとの意圖のために作られるものでありまして、殊にロシアの如きは一般國民の教育程度が低く、無學文盲のものが多いために、手つかり早く映畫によつて生理衛生の智識とか科學の智識を授けんがために、映畫製作は國營になつて居り、この種の映畫は全製作數の六、七割を占めてゐるといふことでもあります。又ドイツにあつても科學、衛生の智識普及のために博物館や物理、化學、またスポーツ等の映畫製作にそれほどの權威の人が動いて居ります。かやうに、文化映畫の製作には多少世界に見るべきものはあるのですが、兒童映畫のそれに至つては未だ充分進め

られてゐるやうには聞いて居りません。殊に日本の映畫界は一般に貧弱でありまして、かういふ方面には至極冷淡であります。最近政府が映畫國策といふことを云ひ出して来たことは大變慶ぶべきことで、政府の力でこの方面が開拓されて行きましたら、今後大いに見るべきものがあるかも知れません。(了)

(八〇頁より)

若し問ふ人あらば「私の老祖母は先年亡くなりました。今は祖母を奉養する愉快な心持に代へてをる勝手な行であります」ご申されます。

斯様な立派な心と達者な腕とを併せ持つ保姆先生、幼兒に接して善良な感化と優秀な保育の効果を上げない筈がありませんか。又一旦緩急の場合烈々偉勳を樹てられるであらうことも想像に難くありません。世の保姆先生勿論之に劣らぬ方の多い事を信じて居りますが、近來の快事としてお知らせ申します。因に此の谷口先生の二ヶ月に亙る奇篤の行爲が動機になつて三浦女史も更に縁邊の人に引取られ今では安らかに老の身を靜養し得る境涯に移られました。

童話
王女の猫の話

— カレル・チャペック —

八六

中野好夫譯

四 ホール探偵の話のつゞき

『そこで僕はアレクサンドリアから、今度はボムベイへ向けて出發した、インドの王子様さいふ變裝でネ、そいつが、

諸君、またよく似合ふのさ。こころがある日、僕が船室でウツラウツラしてゐるに、突然扉をノックする奴があるんだ。立つて扉を開けてみた——が廊下には人の子一人見えないぢやないか。僕は一寸立つて様子を見てゐた、するにふふ二人の船員が近づいて来る足音が聞えて来る。しかも一人の男がヒソヒソ聲でオイ、あの王子をやつゝけて、眞珠ダイヤモンドをみぐるみ頂戴しようぢやないか、と言ふ聲が聞えるんだ。こころが諸君、アバヨ、僕の眞珠、ダイヤ

モンドミ來た日にはみんな硝子玉なんだからな。するに

相手の男が、一寸待つてくれ、俺は上の室にナイフを忘れて來た、そういつてナイフを取りに去つた様子だ。その間に僕は残つた野郎の首つ玉をいきなりグイミ捉へて、猿轡をはめた、それから此奴にすつかり王子の服を著せるに、ガンデガラメに縛り上げて僕の代りにベットの中に寝かせて置いた。そこで僕の方が奴の服を失敬して、扉の外に立つてゐたもんだ。ナイフを取りに行つた野郎はまもなく歸つて來た。僕は何食はん顔で、オイもうあの王子を殺害するのは止さうぢやないか。俺がもうチャンミ一絞めやつゝけたよ。番をしてゐるから、早く入つて寶石を剥ぎまつて來なよ、ミこう言つてやつたんだ。

『其奴が船室に入るが早いか、僕はいきなり閉めこんでお

いて、船長の所へ行つた。そして、船長、私の所へ妙な來訪者が御座いますと、ミそ言つてやつた。船長はすつかり事情を聞いて、結局、二人の奴はひびくひつぱたかれた、そこで僕は皆を集めて、言つてやつたもんだ、ホーラ見ろ、諸君、賢明な人間は眞珠ダイヤアモンドなんて物に心を奪はれるやうなもんぢやないんだ、ホラヨッミ、さうだ、僕は硝子玉の寶石を一つ残らず海に投げこんぢまつた。サア、これからつてものは、奴さん達僕にベコベコ頭を下げる。オ、偉大なる王子様つて按排でネ、だがそれにしても僕の室の扉をたゝいて、生命を救つてくれたのは何處の誰れだか、わからない。ミころでも一つこの大きい美味そうな奴を一つ頂戴しよう。』

ホール探偵は食べ終らないうちに、まだ口に一杯頬張つたまゝ話をつゞりました。『そんな風で無事ボムベイに著いた。諸君、インドさいふ國はミにかく大きな妙な國だよ。なにしろ恐ろしい暑さで、河も何もカラカラだ、蒸發してしまはないように始終水をぶつかけてゐるやうな始末だ。その代りには、一度雨が降りや、何もかにも途方もなくム

クムク伸びちまふんだからな。教會堂なんぞでもまるで茸か何ぞのやうに地面からモクモク生えて來るんだからネ、だからだよ、早い話がベナレスにあの澤山教會があるつていふのは、それからまだ僕等の國の丁度雀のやうに、こゝでは猿がウヂヤ／＼して居る。だがすつかり人間に馴れたもんで、寢臺の上までノコ／＼上つて來る。うつかりするミ、朝なんぞ目を覺まして見るミ、肝腎な人間はベットに居なくて、猿が代りに寝てるたなんて、まあ此奴等はそれ位人間には馴れたもんだ。それからその次は蛇だよ。こいつがまた恐ろしく長い奴で、例へば自分の尻尾を見ても、そいつが自分の尻尾だミは思へないんだ。誰れが他の自分よりも大きな蛇が後から追駈けて來るんだミ、まあそう思ふんだな、そこで奴さん無我夢中に逃げ出しちまふ、結局は自分で自分に追駈けられて、可哀相に死んぢまふていふ譯さ。だが、そうだ、僕はあそこに住んでゐる象の事を話さなかつたネ。ミにかくインドて國は大したものだよ。』

『僕はそこでボムベイからまた電報を打つた。それから暗號の手紙ミ、ナニこいつは魔法使ひに何か僕が大變な計畫

でもあるかのやうに見せかけようつていふだけの事さ』。

『あの手紙は一體何が書いてあつたんだ。ミ探偵達は不審氣かしげに申しました。

『僕は今もう半分だけは解けてるんだが』

中には得意らしく言出すものもありました。

『ホ、ウ、ぢや君達は僕より賢いつていふ譯だ』ホール君は申しました。『だつて第一僕自身讀めないと思つてるんだからネ。ナーニ、要するに暗號らしく見せる出鱈目にすぎないんだよ。それからボムベイからは汽車でカルカッタへ行つた。インドぢや汽車の中は座席の代りに御風呂がある、餘り暑苦しくならないやうにこいふんだネ。森や沙漠を通つた。叢林の中で恐ろしい虎の眼がギラギラ光つてるたし、河の淺瀬には白い象が涼しい眼をしてじつと僕等を見てゐた。山鷲が僕等の汽車を掠めて舞ひ上つたり、七色蝶々がヒラヒラ窓から舞ひこんで來たりもした。諸君、つまり僕は行く先き先き到る所で魔法使ひのゐるのが判つてゐるんだ』。

『カルカッタの近くであの聖淨なガンヂス河の畔へ來た。

恐ろしい廣い河だつたつけ、投げた石が向ふ岸まで行き著くのに一時間半はかゝらうこいふんだからチ。丁度僕等の汽車が河岸を走つてゐる時だつた、一人の女が岸で洗濯物をしてゐるが、さうした機みか、前のめりして、そのまゝ河の中へ落つこちてしまつたんだ。サア溺れさうだ。僕はいきなり全速力で走つてゐる汽車から跳び降りて、その女を岸に引上げてやつた、ナーニ、勿論諸君だつてきつこやつたらうこさ』。

探偵はみんなそれはそうだこいつた様な顔をしてうなづきました。

『だが實をいふと、こいつは仲々うまく行かなかつた。こいふのは、僕がその女を抱えて、水の中でもがいてゐる時に、あの鰐の畜生が見つけた。そしていきなり僕の手を猛烈にかんだ、なんこか女の方は岸にいたが、肝腎の僕はそのまゝ氣が遠くなつてしまつた。それから四日間こいふものこのインド人の女が僕を介抱してくれた——早く言や、諸君、この金の指輪がつまりその時の思ひ出だよ。要するに世界中でこの人間だつて恩は知つてゐるこいふこさだ

ネ、眞黒な野蠻人にしてもだ、結局僕等さ何の變りもない
こいふことだよ。』

『だが、お蔭で僕は五日間の損をした。河岸に立つて考へ
たネ。こいつは四十日ぢや一周できない。畜生!! 一萬圓の
賭けも、梨の實もすつかりフイになつちまつた、さそんな
こを考へてゐるさき小さな船が一艘やつて來た。あのジ
ヤンクつて奴だネ、筵の帆をあげて、船の中には薄汚いマ
レイ人が三人乗つてゐたつけ、まるで噛みつくやうな白い
齒を剥いて僕に何か言つてゐるんだ、ニア、ナニア、ブケ、
ナガサキ、そこで僕は叫鳴つてやつた。この乞喰野郎!! 貴
様等の言葉が俺にわかるさでも思つてゐるのか、!! ニア、ナ
ニア、ブケ、ケム、ナガサキ、相變らずやつてやがる。それ
でも御愛嬌のつもりなんだらう、ニヤニヤ笑つてゐるんだ、
だが僕にも長崎だけはわかつた、だつて僕がこれから寄港
するはつの日本の港の名前なんだからネ。で僕は、そんな
お椀みたいな船で長崎へだつて、馬鹿も休み休み言へ、ミ
叫鳴つてやつた。だが奴さん達は相變らず分らない事を喋
舌りながら、船を指したり、天を指したり、それから自分

の胸のあたりを指さしたり、さうやら自分等に從いて來い
さいふ身振りらしいのだ。梨を山盛り貰つてもいやなこつ
た、僕も相變らず頑張つてゐるが、するささうだらう、奴
等いきなり僕に躍りかゝつて、否應なしに僕に筵をグル
〜巻きにしてまるで荷物か何かのやうに船の中に投りこ
んでしまつた。ミにかく僕も面白くはなかつたが、到頭筵
包みのまゝいつか眠つてしまつたらしい。フト目を覺まし
てみるミ、船の中にはゐなくて、チャンミ陸に上がつてゐ
るぢやないか。そして僕の頭の上には大きな菊の花が一つ
咲いてゐる。なんミあたりの樹立はみんな美しい漆塗りだ、
岸邊の砂は一粒一粒洗ひ立てたやうに美しい、何もかも清
淨そのものだ、そこで僕は、ハハア、こゝは日本だなミ思
つた。するさそこへ黄色い顔をした男がやつて來たから、
僕は、恐れ入りますが、こゝは何處で御座いますか、聞
いてみた。男は大聲に笑つて、ナガサキですよつて言ふぢ
やないか。』

『で諸君 ホール探偵はつくづく申しました僕は馬鹿ぢ
やないつもりなんだが、一體あのボロ舟でたつた一晚でカ

ルカッタから長崎まで著いたつていふのは、こいつだけは
ごうしてもわからない、なにしろ、そんな速い船だつて十
日はかゝるさいふんだからネ——それはさにかくこいつを
も一つ頂戴しよう。』

丁寧に皮を剥いて、梨を食べてしまふさ、日本つて國が
また面白い國だ。おそろしく愉快な器用な人間のゐる國で
ネ、目にも見えない薄い瀬戸物の茶碗を作つてゐた、ヒヨ
イミこう親指をたて、そいつをクルクル廻す、その上にチ
ヨイチヨイミ繪具を塗るさ、それでもうすつかり茶碗が出
來上つてゐる。僕の見たある繪描きなんぞは、誤つて筆を
紙の上に落したもんだ、するさ筆が自然ひじらてに轉がつて、家が
出來る、樹立が出來る、歩いてゐる人間の形になる、みるみ
る立派な風景畫になつてしまつた。僕が呆氣にさられてゐ
るさ。その繪描きがいふこゝが面白い。私の師匠の仕事に
比べれやこんなのは何でもありませんや、師匠なんぞはあ
る日雨降りに草履を泥で汚しました、こゝろがその泥が乾
いてみるさ、なんさごうでせう、片方の草履には狩人が犬
を連れて兎を追つてゐるさ、今片方には子供等が學校遊

びをしてゐる繪が、見事に泥で出來上つてゐるさいふんだ
からネ。』

『その次は長崎から船で、サンフランシスコに向けて出發
した。この航海ぢや別に不思議はなかつたが、その代り肝
腎の船が難破してドン／＼沈みはじめた。僕等は急いで救
命艇にミびのつたんだが、ボートが丁度一杯になつた時だ
つた、沈みかけてゐる本船から船員が二人大聲で叫鳴つて
ゐるんだ、女が一人残つた、何んさか詰められないか、ミ
そう怒鳴つてゐるぢやないか。』

『駄目、駄目出來ない、出來ない、誰れか僕のボートから
怒鳴つた奴がある。だが僕は直ぐさま、大丈夫だ、その女
をのせてくれ、さ怒鳴り返してやつた。するさ皆はその女
の席をこさへるために寄つてたかつて僕を海の中に投げこ
んでしまつた。だが僕は別に恨みはしなかつた、いつだつ
て女はさきにしてやるべきもんだからネ、さて本船が沈ん
でしまふさ、ボートも何處かへ行つてしまつた。僕はたつ
た一人大海原の真中にボツンミ残されてしまつた譯だ。仕
方がない、板子一枚にのつたまゝ波に搖られてゐた。濡れ

さへしなければ大して悪い氣持のものではないんだが、
さにかくそんな風で、一日一晩流れてゐたが、僕もこいつ
はいよく駄目かなと少々心細くなつて来た、丁度そこへ
小さな箱が一つ流れて来るぢやないか。開けてみるに中味
はなんも火花が一杯つまつてゐる。』

『火花なんぞ今更さうしろさいふんだ。梨の實ならまだし
もなんだが、僕も最初はわからなかつたが、やがて漸く意
味が讀めて来た。で僕は眞暗な夜の闇がやつてくるに、ま
づ一本打上火花を飛ばしてみた。恐ろしく高く揚つた。そ
して流星のやうに尾を曳いて光つた。その次の奴はお星様
のやうに光つた、三番目のやつは太陽のやうだつた。四番
目はまた美しい歌を歌ひながら飛んで行つた、一番お仕舞
のやつはまた餘んまり高く揚つたもんで、お星様の間に突
き刺さつてしまつた。そつだ、そのまゝ今でも光つてゐる
ぜ。そんな譯で面白半分ボン／＼やつてゐるうちに、やつ
と大きな船がやつて来て、僕を救ひ上げてくれた。ミこころ
で船長が僕に言ふには、その火花がなかつたら、あなたも
御陀佛でしたらうな、私達はその火花が十哩も空に上つて

光るもんで、こりや誰れか救助の合圖をしてゐるのに違ひ
ないに、そう思つてやつて来ましたよつてね。ミこころであ
の親切な船長のためにもう一つ。』

また一つ梨を食べるに、話はつゞきます。『いよく／＼サン
フランシスコからはアメリカの土を踏むさいふ譯だ、諸君
は、なにしろアメリカは僕の故郷だ——そうぢやないか、
アメリカは……そつだ、やつぱりアメリカだ。僕がいくら
アメリカの話をしても君達は信じない。なにしろ途^{さてつ}徹もな
い面白い大きな國だからな。だがこれだけ言つておこつ、僕
は大陸横斷鐵道に乗つてニューヨークへ来た。こゝは途^さ方
もなく高い家が澤山ある、いつまで経つても出来上らない
んだ、なにしろ煉瓦屋だの石屋だなぎが一等下から階段を
上つて、頂上^{てつべん}まで登り切らないうちにお晝だ。仕方がない
からそこでお辨當にする、そして晩には降りて来てベット
で眠らなければならん、まあそんな風で毎日々々やつてる
譯さ、だがアメリカは素敵なもんだぜ、僕がアメリカを愛
するやうに、さういふ祖國愛を知らない奴等なんて、さつ
とさ馬にでも蹴られて仕舞へだ!!』

『アメリカからまた船で、オランダはアムステルダムへ来た。そうだ、その途中だった、ミても愉快なこゝが起つた。まあ旅行中一等愉快な思ひ出だな』。

『なんだい、そりや一體探偵達は膝を乗り出しました。』

『ウン、そりや』ホール探偵は何故か顔をボーツこ赤くして『僕が婚約をしたこいふこゝだよ。實はその船にお嬢さんが一人乗り合せてゐた、美しいお嬢さんだつた。名前はアリスミ言ふんだ。あんな奇麗なお嬢さんてのは世界中鐵の草鞋わらじで探しまはつてもめつかるもんぢやない。ナーニめつかるもんか』ホール君は恐ろしく眞剣な顔をして申しました。『だが待つてくれたまへ、僕は決してお嬢さんはお美しく御座いますなんて、そんなこゝは言やしない。それはもう航海もいよく今日限りだこいふ日だつた。勿論まだ物一つ言つたこゝもなかつた。——こゝろでも一つ頂戴しよう。』

食べてしまつて美味そうに舌打をするミ、また話のつきでした。『その最後の晩だつた。僕が甲板を歩いてゐるミ、不意にアリスさんの方から僕の側へやつて来て、こゝろ

言ふんだ。シドニー、ホール様、あなたはゼノアへいらつしやいませんでしたか、つてネ。僕は、勿論エ、参りましたミ言つた。するミではゼノアで母親を見失つた哀れな少女を御覽になりませんでしたか、ミそう聞くんた。エ、そりや見ましたがネ、馬鹿な奴がゐて、その少女に手を借してやりましたつて。

『アリスさんは一寸黙つてゐましたが、それからまた、ではインドへもいらつしやいませんでしたか。ア、参りましたよ。ではもしや大層勇ましい青年が全速力で走つてゐる汽車からガンヂス河へ飛込んで、洗濯女の命を救つたのを御覽になりませんでしたでせうか。僕は少々閉口したが仕方がない、ハイいかにも見ましたがネ、お嬢さん、大方ごこかの馬鹿者でせうよ。利口な奴ならあんな馬鹿な眞似をするもんぢやありませんからネ、ミ答へておいた。』

『アリスさんはまた一寸黙つたが、やがてこゝろ何か僕の眼を不思議そうにのぞきこむやうにして、では私こんな話を伺ひましたが、それは海の中で溺れかゝつた女の方を満員のボートに救ひ上げるために自分自身は犠牲になつて海

に飛込んでお仕舞になつたなんでも大變立派な方がおありになつたミ、そんなお話なのでありますが、ほんさうで御座いますか。諸君、もう僕はすっかり血が頭へ上つてしまつた仕方がない、僕は言つた。そりや成程、先日きこかの馬鹿者が海の中へノコノコ飛び込んだちまいましたガネ。

『するミアリスさんが僕の両手をこつて、眞赤になつてこ言ふのだ。あなたは素晴らしい親切な方ですわ、お判りになりました。あなたがゼノアの少女や、インドの洗濯女や、また知らない婦人にしておやりになつた親切、そのためにきつミ世界中の人があなたを好きになるに違ひありませんわ。』

『さうで諸君、その時、神様が、いゝね、神様が僕の後から僕をお突きになつた、で僕は思はずアリスさんを抱きしめて、まあ結局そんな譯で婚約まで行つたさいふ譯なんだがネ。そこで僕は聞いてみたんだ。アリスさん、こんなくだらない僕の話を誰れがあなたにしたんです。僕、金輪際、他人に自慢して話した覚えなんてないのですがネ。』

『さうなんですの、アリスさんは言つた。今夜私が海を眺

めながら、あなたのこミを考へてゐるミ、黒い服を着た小さい女の方が私の側へ来て、すっかりあなたのこミを聞かせて下さいましたの。そこで僕はせめて御禮でもミ思つて、後でその黒い服の女さいふのを一生懸命に探したんだが、到頭姿さへ見つからなかつた。まあそんな譯で僕は船中で婚約してしまつたんだが……ミ、ホール探偵は長い話を結んで、キラキラ光る眼を押し拭ひました。』

『さうで肝腎の魔法使はさうしたんだ』
探偵達は大聲で申しました。

『ナニ、魔法使ひ？』世界的探偵、ホール君は申しました。『彼奴は要するに豫想通り自分で自分の好奇心の良にかつたさいふもんだ。僕がアムステルダムに泊つた晩のこミだ、僕の部屋の扉をノックして入つて来た者がある。ホール様、ホール様、私はもう何ミも我慢が出来ないのですが、さうか後生ですから、一體さうして私をお捕へになるつもりか話していたゞきたいミ、さう言つて来たんだ』。

『僕は嚴かに言つてやつた。魔法使君、まあ御免蒙らう。もし僕がそれを君に話せば、折角の計畫を相手に知らせて

仕舞ふさいふもんだ、そして君は逃げて仕舞ふだらう。』

『するま魔法使は苦しさうに言ふんだ。さうか御願ひで御座いますから、私を可哀相だと思つて下さい。私は好奇心のためにもう夜も眠られないので御座います。さうかほんまのまごころを御聞かせ下さいませんか。』

『成程、分つたかい。僕は言つてやつた。ちや言つてやらう。だがその前に今この瞬間からお前は俺の囚人だぞ、決して逃げは致しませんま、誓言するか。』

『誓言致します。彼奴め大聲で叫んだ。』

『おい魔法使ひ、私はスックミ立上つて言つた。今こそ俺の計畫成就だ。言つてきかせてやらう、俺はたゞお前のその好奇心一つを當にしてゐるのだ。海の上でも、陸の上でも、お前は俺の心を探らうにして、いつでも俺の側にゐるのをチャンミ知つてゐた。最後には、そうだ、今のお前のやうに、俺の前へ来て、なんの事はない、自分の好奇心につられて、お前の自由を失つてしまふまごころになるんだま、チャンミ俺は知つてゐたんだ。』

『するま魔法使ひは眞青になつて頭を俯垂れてしまつた。』

そして、あなたは實に恐ろしいひきい人だ、まるで魔法使ひの眼を抜こうさいふ人だから、ま僕にさう言ふんだ。でまあ諸君、僕の話はこれだけだよ。』

ホール探偵の話が終るま、探偵等は心から腹を抱えて笑ひました。そしてホール君の幸運な成功を祝福致しました。ホール君は満足さうに微笑みながら、皿の中を美味しさうな梨を探して居りましたが、フト紙に包んだのが一つの梨が眼につきました。ホール君は早速包紙を解いてみるま、中には、『シドニー、ホール様へ、ゼノアの少女より』ま書かれてあります。

ホール君はもう一度皿の中を見ました、成程、また一つ紙に包んだのがあります。開けて讀んでみるま、『御健啖を祈ります、ガンヂスの洗濯女。』

今一つのも開けてみました。『生命の恩人へ心からなる感謝まごころに、救命艇の女より。』

更にも一度、ホール君は皿の中から紙包みの梨を取上げました。『あなたの事を思ひつゞけて居ります、アリス。』

そして皿の中には最後に一つ、大變美しいのが残つて居

りました。ホール君は早速二つに割つてみますよ、果して中からたゝんだ手紙が一枚出て来ました。封筒には、『シドニー、ホール様』とあります。開けてみる中には、『秘密を有つものは熱病に氣をつけなければいけません。探偵様は氣を失つてガンヂス河の岸で眠つておいでになる間に熱病の謔言ですつかりあなたの計畫を喋舌つてお仕舞ひになりました。これが私の計畫でありました。私はあなたの手に落ちかゝつてゐる懸賞金をフイに致したくはありませんでした。で私の方から進んで、あなたの手にかゝつたやうな譯であります。あなたの御貰ひになる懸賞金はいはゞあなたの結婚に對する私のお祝ひであります』。

ホール君は飛び上るほご仰天致しました。『諸君これで一切分つた。僕の方がさんだ馬鹿者だつたんだ。私がゼノア中を馳けづり廻つてゐる間船の錨をしつかり押へてゐたのも、アラビヤ人に化けて僕を鰐から救つてくれたのも、二人の船乗りが僕を殺す相談最中に僕を起してくれたのも、みんなあの魔法使の仕業だつたんだ。彼奴は僕がガンヂス河で氣を失つてゐる間に僕の計畫を聞いてしまつた。ジャ

ンクを送つて長崎まで運んでくれた。僕の生命の親だつた花火の箱を流してくれた。黒い服の女に化けてアリスの心を僕の方に向けてくれた、そして最後には自分で進んで、だまされたやうな顔をして私を助けてくれた、懸賞金を取らせてくれたんだ。僕はあいつを出し抜いてやらうと思つた、ところがやつぱりあいつは僕より賢しこかつた、その上僕よりはるかに器量の大きい奴だつた。『魔法使ひ、偉いぞ!! 萬歳!! さあ諸君、僕と一緒に叫んでくれたまへ』。(つゞく)

大阪市保育會主催にて開かれます筈でした全

國幼稚園關係者大會が、關西地方大風水害のため

延期となりました事は御承知の通りでございます

ますが、明昭和十年三月二、三日の兩日に變更開

催される事になつたことのお通知をいたゞきまし

た。本誌からも一言おしらせ申します。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半年分	貳圓拾錢	金參拾圓	金貳拾圓
一年分	四圓拾錢	一等面一頁	以下
拾貳冊送	料共	金貳拾五圓	御斷
拾貳冊送	料共	神田區駿河臺一ノ三品田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和九年十二月十三日印刷納本
 昭和九年十二月十五日發行

幼兒の教育 第三十四卷 第十二號

不許複製 禁止轉載

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 編輯者 倉橋 惣三
 發行所 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林 舎
 東京市小石川區大塚町三十五

發行所

日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。
 一、(郵券代用の場合)は總て一割増
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたします。其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

大好評

東京女子高等師範學校教授

前附屬幼稚園主事 現附屬小學校主事

堀

七

藏生著

四六判四一六頁美本
口繪寫眞十數葉入
價二圓八十錢 送十六錢

幼稚園保育の諸問題

一・幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針

本書は幼稚園經營並に保育實際に關する。(一)理論(二)實際(三)小學校との連絡問題につきて長く幼稚園主事たりし堀先生が現に同一校の小學校主事たる地位より懇説詳述されし絶對無比の名著である。

二・小學校との連絡問題についての詳述は大特色

(一)小學校入學の準備(二)入學檢定の受け方(三)入學檢定の所感(四)入學檢定の結果(五)小學校入學に關しての注意(六)小學校入學後の考察等についての詳述は最も權威ある本書のみの特色である。

三・理論的見地に立ち保育實際に理論付けらる

兎角、母の愛の如く嬌々しさのみ陥り易き保育實際に父性愛の或る強さを加へたる。此點より見て本書は又稀なる權威書である。

東京女高師主事 堀七藏先生著

四六判三百餘頁 定價二圓五十錢
挿繪多數 文平易 送料十六錢

▲新科學教育の根本問題科
學高潮時代に忘れられた而も根
本的な重要問題を解決指示する。

▲新家庭教育の中心問題新
家庭教育は養育問題等止ま
らず須く時代人として活躍
し得る基を與へねばならぬ。

▲母姉の良姉、教師の伴侶
自覺ある母姉、幼稚園保姆
必讀の最良書である。

好評五版

我が兒の科學教育

東洋圖書株式會社

東京市神田區保神一丁目一七十六番地
振替 東京一〇三〇七番

拵へて遊びませう

幼稚園でも、御家庭でも、面白くたやすくできる、おもちゃのいろく。

◇羽子板——白木の桐材で、幼稚園程度のお子様にも適當の大きさで重さ、これにクレオンで彩色したり貼紙や摺紙で作つたいろいろの形を押繪風に貼つて裝飾。

◇凧——西ノ内純和紙にヒゴ竹ミ一組、子供にもすぐ貼つて揚げられます。 五十枚分 金 一圓

◇獨樂——幼稚園で使ひます恩物のこまご大正ごま、何れもそのまゝ使はれますし、厚紙の材料ミヒゴ竹ミで幼い子供が作つて遊べるものもあります。

恩物ゴマ 大五個一箱 金四十五錢 大正ゴマ 一個 金一圓
小六個一箱 金二十二錢 五十個分 金七十五錢 一個 金十錢
コマ材料

◇子供カルタ——東京女高師附屬の幼稚園の編纂になつた、子供の作つたカルタ。子供にピッタリ宛てはまつた繪ミ言葉の面白いもの。その他「モモタラウカルタ」「ケンカウカルタ」等夫れく面白い。

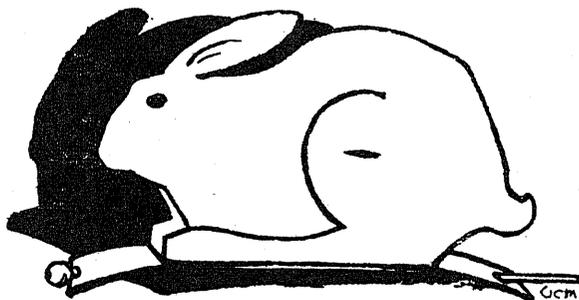
子供カルタ 一組 金三十錢
モモタラウカルタ 一組 金二十五錢
ケンカウカルタ 一組 金十五錢

◇新し技の懸賞募集

締切 二月十日

幼稚園の手に新しいエポックを作るべき御自信の御案を齎つて御出品下さい。詳細は

キンダーブック附録ツバメノオウチ十一月「セカイイチ」御参照



館ルベール社 會式株

番七二八三(33)段九話電・路小川今・田神・京東 店 本
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出

定 價 三 十 五 錢